

『読めた』『わかった』『できた』 読み書きアセスメント ～中学校版～



活用&支援マニュアル編

東京都教育委員会は、平成28年2月に策定した、「東京都発達障害教育推進計画」に基づき、小学校における学習の「つまずき」を把握するアセスメント方法を平成28年度に開発いたしました。

これを踏まえ、平成29年度は中学校版の開発を進めてまいりました。中学校では、学習内容がより高度になるため、新たな困難さが生じる可能性があります。

発達障害のある生徒一人一人の、小学生とは異なる実態を適切に把握し、指導・支援していくことが重要です。

本冊子は「通常の学級で活用するアセスメントと支援」と「通級による指導で活用するアセスメントと支援」の二部構成になっており、それぞれ「学校で見られる行動」と「読み書き」に関するアセスメント、及びアセスメントの結果を踏まえた支援方法や学習支援教材を紹介しています。

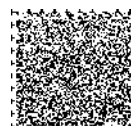
なお、本冊子にはアセスメント結果を集計し、生徒の実態を多角的に把握できるソフトと読み書きスキルを学習するための支援教材が入ったCDを付けています。この他、本冊子を有効に活用していただくための「読み書きアセスメントDVD」及び、冊子「個別指導事例集編」を併せて御活用いただき、生徒一人一人に応じた指導の充実を図られますようお願い申し上げます。

【重要】 本冊子は、生徒の学習の「つまずき」の状況を把握し、支援するためものです。アセスメント結果により、障害の有無を判断することはできません。

また、アセスメント結果の取り扱いは、各学校等で定められた個人情報の取り扱いに関する規定等に従い、個人情報の保護を厳格に行ってください。

平成30年3月

東京都教育委員会





本冊子の構成 2

【Ⅰ 通常の学級で活用するアセスメントと支援】

- 1 一斉学習での学習支援について 3
- 2 アセスメント 4
 - A：学校で見られる行動のチェックリスト 5
 - 課題①～③への対応 6
 - B：読み書き達成テスト
 - 課題①文章読解テスト 12
 - 【文章読解・コラム】 13
 - 課題②図表の読み取りテスト 14
 - 課題③漢字の読み書きテスト 15
 - 課題④英単語つづりテスト 16
- 3 CDソフトの使い方
 - 「読み書きアセスメント」の使い方 17
 - 「読み書きアセスメント」の活用の仕方 18

【Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援】

- 1 グループ学習・個別学習での学習支援について 19
- 2 アセスメント 20
 - A：学校で見られる行動のチェックリスト 21
 - 課題①～②への対応 22
 - B：読み書き達成テスト
 - 課題①～⑮への対応 26
 - C：支援の例
 - 読解①② 37
 - 平仮名・漢字の流ちょうな読み①② 39
 - 漢字単語の読み①～③ 41
 - 漢字単語の書き①～④ 44
 - ローマ字読み・英語つづり①～④ 48
- 3 CDソフトの使い方 53

本冊子の構成

本冊子は、「通常の学級で活用するアセスメントと支援」と「通級による指導で活用するアセスメントと支援」の二部構成で編成し、「行動への支援」と「学習（読み書き）への支援」について、アセスメントの方法や指導事例等を紹介しています。

Ⅰ 通常の学級で活用するアセスメントと支援

Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

実態把握（アセスメント）

【学校で見られる行動への支援】

- 学校で見られる行動のチェックリストの活用
 - ・情報の読み取り
 - ・情報の活用
 - ・学校生活での自己表現
 - ・注意行動
 - ・社会的行動

【学習（読み書き）への支援】

- 読み書き達成テストの実施と解釈
 - ・情報の読み取りと活用
 - ・平仮名单語の読み
 - ・漢字の読み書き
 - ・視覚スキルと聴覚記憶
 - ・英単語のつづり

※「問題の背景」「行動の特徴」「状況の把握」について確認する。

支援の考え方（実態把握に基づいた生徒一人一人の障害特性に応じた支援の実施）

I 通常の学級で活用するアセスメントと支援

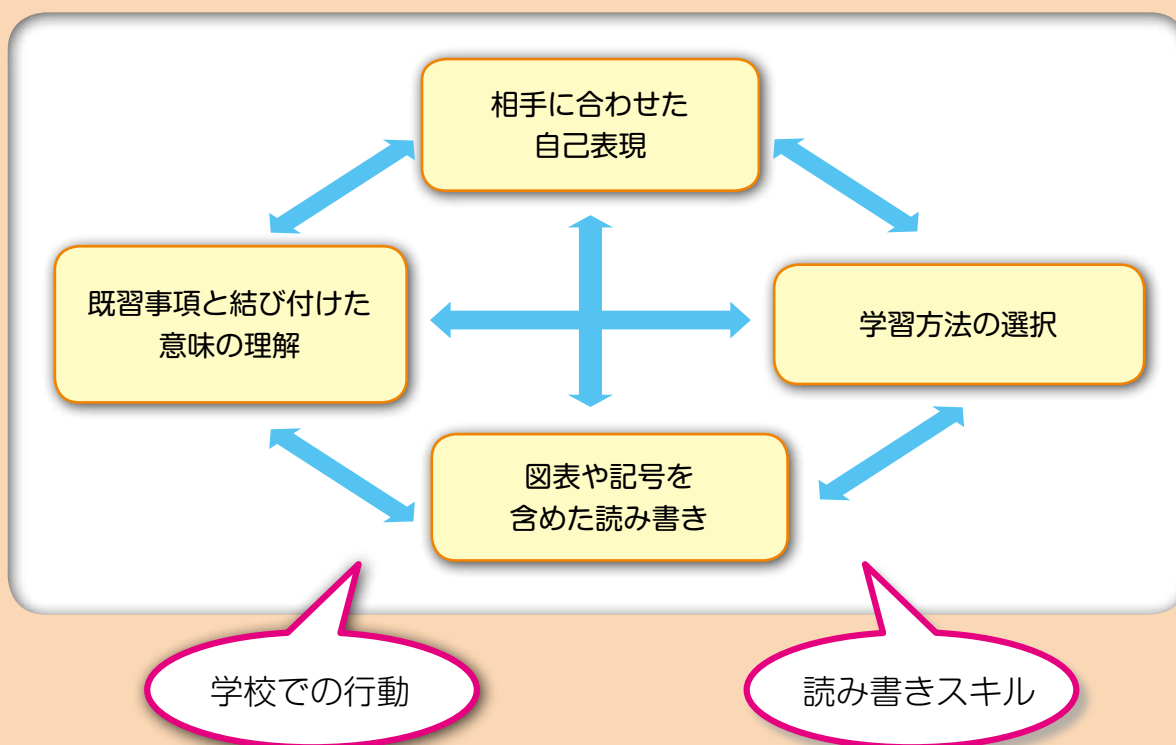
1 一斉学習での学習支援について

小学校版では、児童が一斉学習の内容を理解するために、アセスメントの結果に基づき「平仮名、カタカナ、漢字などの文字を正確に流ちょうに読み書きすること」への支援や、「一斉指示や板書など」への支援が重要であることを示しました。

中学校で、生徒が一斉学習の中でより複雑になる学習内容を理解したり、生徒同士で学習内容を整理したりするためには、「既習事項と結び付けた意味の理解」「学習方法の選択」「相手に合わせた自己表現」「図表や記号を含めた読み書き」への支援が大切です。これらは学習を習得する上で相互に関連し合っています。

また、これらの活動は「学校で見られる行動」などの学習を支える行動の力や「読み書きスキル」などの認知の力によって支えられます。中学校の段階では、「長所や短所の表現」「トラブル状況での理由の説明」などの「相手に合わせた自己表現」の弱さがあると、学校生活全般で困難が生じます。

本冊子で紹介する「読み書きアセスメント」により、学習を支える行動と認知の力の困難を把握し、校内委員会等で教科担当教員間での情報の共有を行い、一斉学習の中での支援を行うことが大切です。



A: 学校で見られる
行動の
チェックリスト

学校で見られる行動のチェックリスト — 活用シート —									
氏名	記入者	記入日	年	月	日	1	2	3	4

読み書き
アセスメント

B: 読み書き
達成テスト

氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

図：通常の学級における学習支援の概要

I 通常の学級で活用するアセスメントと支援

2 アセスメント ～クラスの特徴を知り、指導の工夫につなげる～

適切な指導・支援を実施するために、以下の二つのアセスメントを行います。

A「学校で見られる行動のチェックリスト」

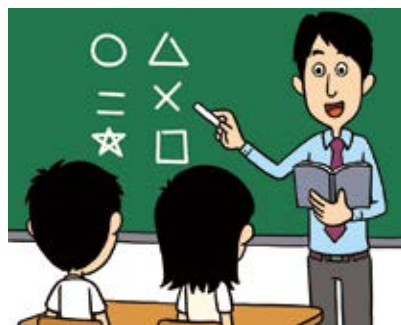
B「読み書き達成テスト」

A：学校で見られる行動のチェックリスト

【課題】

- ①情報の読み取り
- ②情報の活用
- ③学校生活での自己表現

詳細→P.6～11



通常の学級で活用する「学校で見られる行動のチェックリスト」では、一斉学習の場面で見られる行動の弱さを把握します。情報の読み取りと活用の弱さを①「情報の読み取り」と②「情報の活用」で、対人関係の弱さを③「学校生活での自己表現」で評価します。

これらの項目に関連する弱さがある場合には、「情報の読み取りと活用」に関する認知力の弱さが要因となっていることが考えられるため、読み書き達成テスト①と②を行い、各テストの評価を合わせて当該生徒の実態を把握します。

B：読み書き達成テスト

【課題】

- ①文章読解
- ②図表の読み取り
- ③漢字の読み書き
- ④英単語つづり

詳細→P.12～16



読み書き達成テストは、情報の読み取りと活用に関する弱さを、①「文章読解」②「図表の読み取り」の課題で評価することができます。また、特定の学習習得に関係した弱さを③「漢字の読み書き」と④「英単語つづり」の課題で評価することができます。①～④の課題で把握した実態に基づいて、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会等で、教員間の情報共有を行い、効果的な学習支援の方策を考えていくことが大切です。

A：学校で見られる行動のチェックリスト／チェックリスト(コピー用)

学校で見られる行動のチェックリスト

— 通常の学級 —

生徒名 [] 記入者 [] 記入日 (年 月 日)

情報の読み取り		該当しない	あまり 該当しない	少し 該当する	該当する
①聞く	言われたことの要点を理解することができる。	1	2	3	4
②読む	文章の要点を読み取ることができる。	1	2	3	4
情報の活用					
③話す	要点をまとめる、一般的な表現を使うなど、分かりやすく話すことができる。	1	2	3	4
④書く	要点をまとめる、一般的な表現を使うなど、分かりやすく書くことができる。	1	2	3	4
学校生活での自己表現					
⑤得意なことや苦手なことの表現	自分の得意なことを把握して、相手に伝えることができる。	1	2	3	4
⑥トラブル状況での理由の説明	トラブル状況で自分に原因があったり注意を受けたりしたとき、理由を説明でき、謝ることができる。	1	2	3	4

* 1、2、3、4は、それぞれの行動項目が該当する程度を表します。

学校で見られる行動のチェックリストでは、「学校生活での自己表現」を取り上げています。この項目は、自分の「得意なことや苦手なことの表現」、「トラブル状況での理由の説明」で構成されています。この項目に関する困難があると、生徒本人が「これらの行動に必要なとなる認知力が弱い」ために、行動を調整することが難しくなっている可能性があります。このことは、生活指導に関する様々な課題につながる場合があります。「情報の読み取り」と「情報の活用」という読み書きスキルが十分に身に付いていないと、「学校生活での自己表現」の弱さをもたらします。

学校生活での自己表現

本人自身の状況
把握の困難

生活指導に関する課題

得意なことや苦手なことの
表現

トラブル状況での
理由の説明

要点を聞いて（読んで）つかむ、
情報の読み取り

要点をまとめて話す・書く、情報の活用

I 通常の学級で活用するアセスメントと支援

A：学校で見られる行動のチェックリスト／課題① 情報の読み取り(聞く)

学校で見られる課題

話を理解していても、
要点を理解することが
苦手である



人の話を、自分の知識と関連
付けて理解することが苦手で
あり、自分の意見を言うのが
苦手である

行動の特徴

- 注意を向けて聞くことが苦手である。（注意記憶の弱さ）
- 言葉の意味の把握が苦手である。（要点把握の弱さ）
- 話のテーマを理解した上で聞くことが難しい。（要点把握の弱さ）

状況の把握

行動のチェックリストの「言われたことの要点を理解することができる。」の項目で把握します。

支援の考え方

【支援の手掛かり】

話の要点を聞いて理解することが苦手である場合には、その背景となる要因を「注意記憶の弱さ」と「要点把握の弱さ」の観点から理解すると、支援の手掛かりが見えてきます。

【支援の工夫】

注意記憶の
弱さ

- ・ 短い時間で区切りながら、話をする。
- ・ 「話のテーマ」や「分かっていること」などを、箇条書きにして生徒に示す。

要点把握の
弱さ

- ・ 何をポイントにして聞いたらよいか、あらかじめ伝えておく。
- ・ 聞き取るためのポイントを箇条書きにして示し、聞きながらメモをとるように指導する。
- ・ 話を理解する上で必要な事柄を、視覚的に示しておく。

A：学校で見られる行動のチェックリスト／課題② 情報の読み取り(読む)

学校で見られる課題

文章を読んだ感想を求められると、文章のテーマと関連のないことを答える



文章を読んだ感想を求められても、自分の考えを述べるのが苦手である

行動の特徴

- 平仮名や漢字をスムーズに読むことが困難である。（流ちょうな読みの弱さ）
- 言葉の意味の把握が苦手である。（要点把握の弱さ）
- 文章のテーマを理解した上で、読もうとしない。（要点把握の弱さ）

状況の把握

行動のチェックリストの「文章の要点を読み取ることができる。」の項目で把握します。

支援の考え方

【支援の手掛かり】

文章の要点を、読んで理解することが苦手である場合には、その背景となる要因を、「流ちょうな読みの弱さ」と「要点把握の弱さ」の観点から理解すると支援の手掛かりが見えてきます。

【支援の工夫】

流ちょうな読みの弱さ

- ・ 文章中の平仮名や漢字の単語の読みが、正確で流ちょうになるように指導する。
- ・ 息継ぎのポイントや、文章の意味の切れ目を示す。

要点把握の弱さ

- ・ 何をポイントにして読んだらよいか、あらかじめ伝えておく。
- ・ 読み取るためのポイントを箇条書きにして示し、読みながらメモをとらせる。
- ・ 文章を理解する上で必要な事柄を、視覚的に示しておく。

I 通常の学級で活用するアセスメントと支援

A：学校で見られる行動のチェックリスト／課題③ 情報の活用(話す)

学校で見られる課題

一般的な表現を使うなどし、要点を交えて、分かりやすく話すことが苦手である



相手の考えを踏まえて、説得力をもって話すことが苦手である

行動の特徴

- 利用できる限られた言葉のみで話す。(要点把握の弱さ)
- 何のために話すのか、目的を考えた上で話すことをしない。(要点把握の弱さ)
- 話のテーマを理解した上で、話すことをしない。(要点把握の弱さ)
- 話す内容に、説得力があるものが少ない。(要点把握の弱さ)

状況の把握

行動のチェックリストの「要点をまとめる、一般的な表現を使うなど、分かりやすく話すことができる。」の項目で把握します。

支援の考え方

【支援の手掛かり】

テーマに沿ったまとまりのある話をするのが苦手である場合には、その背景となる要因を、「要点把握の弱さ」の観点から理解すると支援の手掛かりが見えてきます。

【支援の工夫】

要点把握の弱さ

- ・ 何をポイントにして話したらよいか、あらかじめ伝えておく。
- ・ 話すことのポイントを箇条書きにして示し、それを見ながら話をさせる。
- ・ 話す上で必要な事柄を、視覚的に示しておく。

A：学校で見られる行動のチェックリスト／課題④ 情報の活用(書く)

学校で見られる課題

要点が、分かりやすい文章
を書くことが苦手である



根拠に基づき、自分の意見を
示すなど、説得力のある文章
を書くことが苦手である

行動の特徴

- 平仮名や漢字の読み書きに時間が掛かる。
(流ちょうな読み書きの弱さ)
- 言葉の意味の把握が苦手である。(要点把握
の弱さ)
- 何のために書くのか、目的を考えた上で書く
ことをしない。(要点把握の弱さ)
- 文章のテーマを理解した上で、書こうとしな
い。(要点把握の弱さ)

状況の把握

行動のチェックリストの「要点をまとめる、
一般的な表現を使うなど、分かりやすく書く
ことができる。」の項目で把握します。

支援の考え方

【支援の手掛かり】

文章の要点を書くことが苦手である場合には、その背景となる要因を、「流ちょうな読み書きの弱さ」と「要点把握の弱さ」の観点から理解すると支援の手掛かりが見えてきます。

【支援の工夫】

流ちょうな読
み書きの弱さ

要点把握の
弱さ

- ・ 文章中の平仮名や漢字の単語の読み書きが、正確で流ちょうになるように指導する。
- ・ 何をポイントにして書いたらよいか、あらかじめ伝えておく。
- ・ 書くポイントを箇条書きにして示した上で、書くよう指導する。
- ・ 書く上で必要な事柄を、視覚的に示しておく。

I 通常の学級で活用するアセスメントと支援

A：学校で見られる行動のチェックリスト／課題⑤ 学校生活での自己表現(得意なことや苦手なことの表現)

学校で見られる課題

明らかに成績の偏りがあるのに、それに対して対処しようとしていない



学級の活動に対して消極的で、自分の得意な力を生かして、活動に参加しようとしていない

行動の特徴

- 自分の得意なことをアピールすることに消極的である。（得意なことの把握の弱さ）
- 学級全体での活動に対して消極的である。（得意なことの把握の弱さ）
- 自分の読み書きの苦手等を友人に知られないようにしている。（苦手なことの把握の弱さ）

状況の把握

行動のチェックリストの「自分の得意なことを把握して、相手に伝えることができる。」の項目で把握します。

支援の考え方

【支援の手掛かり】

学校生活で自分を表現することが難しい場合には、その背景となる要因を、「得意なことの把握の弱さ」と「苦手なことの把握の弱さ」の観点から理解すると支援の手掛かりが見えてきます。

【支援の工夫】

得意なことの把握の弱さ

- ・自分の得意なことをアピールしてうまくいった事例について紹介する。
- ・学級の中で、アピールできる状況を設定する。
- ・学級の中でアピールできることには、どんなことがあるのか本人と相談して確認する。

苦手なことの把握の弱さ

- ・学習上の苦手なことが明瞭な場合には、それに対する対処の仕方をアドバイスする。
- ・苦手なことに対する配慮を、周囲に依頼するようアドバイスする。

A：学校で見られる行動のチェックリスト／課題⑥ 学校生活での自己表現(トラブル状況での理由の説明)

学校で見られる課題

学校生活におけるトラブル状況で、トラブルの理由や経緯をうまく説明できない



トラブルで、自分に誤りや責任があったときに、うまく謝ることができない

行動の特徴

- トラブルがあったときに、自分本位なことを主張して、トラブルの経緯を説明できない。(トラブル状況の要点把握の弱さ)
- トラブルがあったときに、相手のことを考えて、うまく謝ることができない。(謝り方の困難さ)

状況の把握

行動のチェックリストの「トラブル状況で自分に原因があったり注意を受けたりしたとき、理由を説明でき、謝ることができる。」の項目で把握します。

支援の考え方

【支援の手掛かり】

トラブル状況で謝ることが難しい場合には、その背景となる要因を、「トラブル状況の要点把握の弱さ」と「謝り方の困難さ」の観点から理解すると支援の手掛かりが見えてきます。

【支援の工夫】

トラブル状況の要点把握の弱さ

謝り方の困難さ

- ・トラブル状況の要点把握の仕方を指導する。
- ・自分の行動について説明する仕方を指導する。
- ・対人関係のトラブルでの謝り方を指導する。
- ・その他のトラブルでの謝り方を指導する。
- ・丁寧に謝るとうまくいくことを指導する。

I 通常の学級で活用するアセスメントと支援

B：読み書き達成テスト／課題① 文章読解テスト

行動の特徴

- 長い文章の要点を把握することが苦手である。
- 長い文章で記述されている因果関係を把握することが苦手である。

アセスメント方法

- 「文章読解テスト」では、指示語や接続詞の理解、段落の要点の理解、文章全体の要点の理解について、テストします。



<文章読解テスト>

文章読解テスト

★次の文章を読んで、次の問いに答えなさい。答えは、あ、い、う、え、おのいずれか1文字で○を付けてください。

（1）「はなははは」と笑いながら、太郎は、お母さんに話しかけた。お母さんは、太郎の顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。

（2）太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。

（3）太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。

（4）太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。

（5）太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。

（6）太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。

（7）太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。

（8）太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。

（9）太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。

（10）太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。太郎は、お母さんの顔をじっと見つめて、お母さんの言葉を聞いて、お母さんの顔を覗き込んで、優しく微笑んだ。

次のページに問題があります。

支援の考え方

【支援の手掛かり】

長文の読解が苦手な生徒の中には、短文の読解が苦手である場合が多くあります。中にはテストの問題文の読み取りが困難で、課題に取り組めない生徒もいます。教科書の読み取りが苦手であるために、自習等、自分で教科書を読む際にも大きな支障があります。

【支援の工夫】

文章の読解困難の背景には、多くの要因があります。平仮名の流ちょうな読み困難、指示語や接続詞の理解困難、語彙の弱さなどです。また、長い文章において、文と文の関係を判断するのに必要なルールであるマクロルールの理解の弱さ（コラム1）も挙げられます。マクロルールの理解の弱さは、5～6文で構成された文章課題で練習することを通して改善されることがあります。また通級による指導での指導方法（P.37）は効果的です。

コラム 1 読解とマクロルール

長い文章全体を理解することは、文や段落についての意味理解（ミクロ命題）と文章全体の要点の理解（マクロ理解）に分けることができます。

文章全体の要点を理解するためには、文や段落の意味の相互の関係について判断することが必要です。この相互関係の判断に必要なルールは、マクロルールと呼ばれます。代表的なルールとして、三つのマクロルールが知られています。

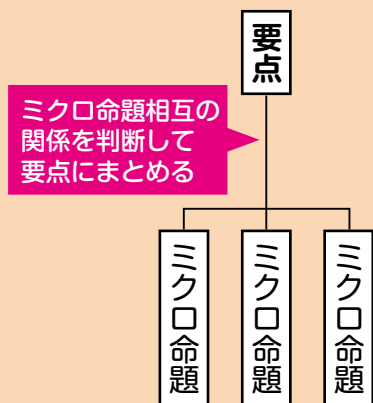
- ①削除ルール：無関係な情報を外します。
- ②一般化ルール：上位カテゴリーの言葉で、置き換えます。
- ③構成ルール：いくつかの文を違う文章で、短く表現します。

これらのルールの習得は、小学4年生頃から始まり、一般化ルールや構成ルールを効果的に適用する力は、中学生以降も発達します。

*マクロルールの活用については、P.37 も参考にしてください。

要点の理解

【マクロ理解】



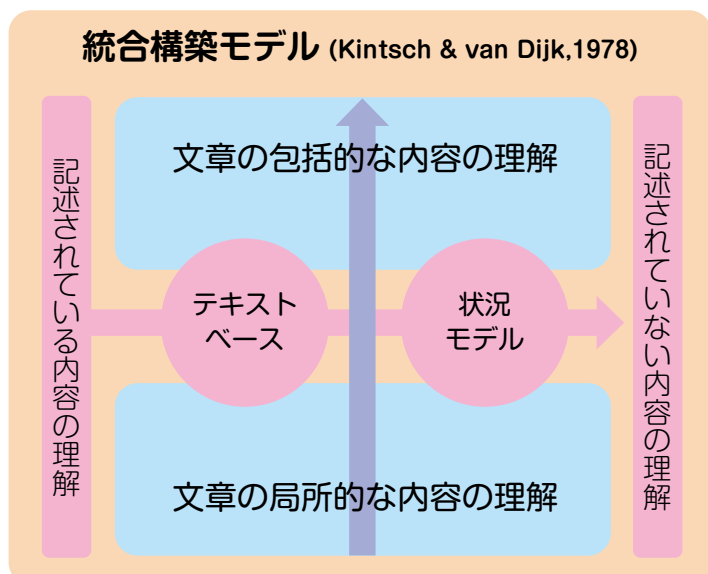
コラム 2 読解と統合構築モデル

読解において、内容理解のレベルを説明する上で、統合構築モデル(Kintsch & van Dijk,1978)は有効であるとされています。まず、読解のレベルは、文の一部の理解から、文章全体の理解へと進みます。

一方で、読解のレベルは、記述されている内容の理解から、読み手の知識に基づいた、記述されていない内容の理解（テキストベースから状況モデルへの理解）へと進みます。様々な読解のレベルは、これらの段階のどこかに位置すると考えられます。

中学生の読解では、学年が進むにつれて、文章を記述されていない内容を含めて包括的に理解し、状況モデルに基づく読解が求められるようになっていきます。

統合構築モデル (Kintsch & van Dijk,1978)



B：読み書き達成テスト／課題③ 漢字の読み書きテスト

行動の特徴

- 抽象的な概念を表す漢字単語について、読めなかったり、適当に読んだりすることが多い。
- 漢字を書くことが苦手で、平仮名で書くことが多い。
- 漢字テストで、空欄が多い。

アセスメント方法

- 「漢字の読みテスト」は、常用漢字を含めてテストします。「漢字の書きテスト」では、小学5年生の漢字単語についてテストします。正しく読み書きできた漢字単語の数を得点とします。

<漢字の読み書きテスト>

漢字の読みテスト

次の漢字の読みを「()」の中に書きましょう。
正しい読みは5分間です。

① 箇所	② 訝松	③ 頑疑	④ 納涼	⑤ 窮地	⑥ 顯著	⑦ 代償	⑧ 秩序	⑨ 従来	⑩ 納入
()	()	()	()	()	()	()	()	()	()

⑪ 威容	⑫ 要旨	⑬ 緩和	⑭ 承諾	⑮ 妥協	⑯ 欠陥	⑰ 誠意	⑱ 鑑賞	⑲ 沿線	⑳ 匿名
()	()	()	()	()	()	()	()	()	()

漢字の書きテスト

「()」の空欄を漢字で書きましょう。
正しい書き方は5分間です。

① さんだが	② 野菜を	③ ひょうな	④ こくまの
ふさる	さいふ	もの	事
()	()	()	()

⑤ ふあんに	⑥ しやうり	⑦ しやうり	⑧ しやうり
なる	する	する	する
()	()	()	()

支援の考え方

【漢字単語の読み支援：単語の意味についてのイメージを明確にする指導】

小学生のときに、音読困難であった児童の多くは、中学生になると抽象的な概念を表す漢字単語について読みに困難さを示します。音読漢字の意味を表すイラストで表して、読みの定着をはかります。また、生徒が経験したエピソードを関係させて読みを指導します。通級による指導での指導方法（P.43）は効果的です。

【漢字単語の書き支援：困難さのタイプに合わせた指導】

漢字単語の読みに困難さを示す生徒では、漢字単語の読みと合わせて、書きの指導を行います。漢字の形を構成する部品に分解し、部品の構成をイラストを使って本人が表現することで、視覚的イメージと関連した理解を促す指導は効果的です。

漢字単語の書きのみに困難を示す生徒には、漢字の部品を本人が想起しやすい言葉に置き換えさせ、言語的な理解を促す指導が効果的です。また、通級による指導での指導方法（P.46）は効果的です。

I 通常の学級で活用するアセスメントと支援

B：読み書き達成テスト／課題④ 英単語つづりテスト

行動の特徴

- 文字と音の対応が規則的な単語でも、読んだり書いたりすることが苦手である。
- 母音を挿入する(例bedをbeddoと書く)など、ローマ字表記にする誤りが多い。

アセスメント方法

- 「英単語つづりテスト」では、中学1～3年生で異なる基礎単語について、つづりを正しく書くことができたものを得点とします。

<英単語つづりテスト>

英単語綴りテスト

一年生はこの問題を解きましょう

(問題)書き：一年生問題
次の日本語の意味にあうように、()の中に英単語を書き入れましょう。
※答えはすべて、アルファベットを使って、英語で書きましょう※

①名前	()
②読む	()
③(スポーツなどを)する、遊ぶ	()
④本	()
⑤ねこ	()
⑥ペン	()
⑦手	()
⑧男の子	()
⑨かばん	()
⑩好き	()

支援の考え方

英単語のつづり学習は、以下の三つのスキルによって支えられています。この三つのうち、弱いスキルの習得を目指すことで、英単語つづりを学習するための仕方を身に付けることができます。弱いスキルは、P.34～36のアセスメントで把握できます。

学習の仕方を習得するための支援

英単語つづり学習

ローマ字の知識
(orange をオレンジと言って覚える)

※支援ワークの使用法は P.54 を参照※

単語の視覚イメージの形成
(単語の形態を見たまま覚える)

※支援ワークの使用法は P.54 を参照※

英語独自のつづりのルール
(make はマケではなくメイクと読む)

※支援ワークの使用法は P.54 を参照※

・アルファベットの文字と音の対応を理解する
・音を足して、新しい音を作る (S+A=SA)

・単語をフラッシュカードですばやく読む
・誤った単語のつづりを修正する

・代表的なつづりのルールを学習する
・同じつづりを持つ単語をまとめて学習する

3 CD ソフトの使い方／「読み書きアセスメント」の使い方（通常の学級版）

「テストの得点を入力」をクリックして、各生徒のテストの得点を入力します。生徒ごとの所見が出るので、確認します。

「一覧を印刷（読み書き）」をクリックすると印刷されます。印刷は、「通常使うプリンタ」に出力されます。

*1 ■や2 □が重複している生徒は、学習上の配慮が必要

基本の設定

作業を終了するときは、情報・得点を保存します。

「一覧」や「座席表」で表示する人数を設定します。

「チェックリスト」「達成テスト」をプリントします。

名前を入力します。

支援教材をプリントします。

座席表で結果を表示します。

図表の読み取り・情報活用・英単語のつくり

印刷できます！

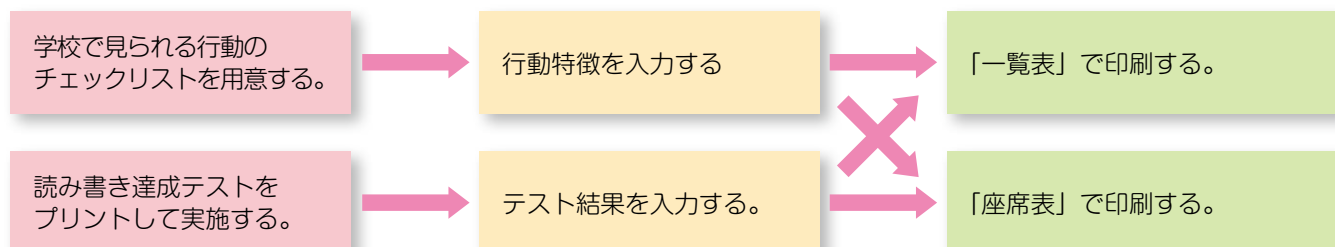


座席は、ドラッグして、実態に合わせた配置に変更することができます。

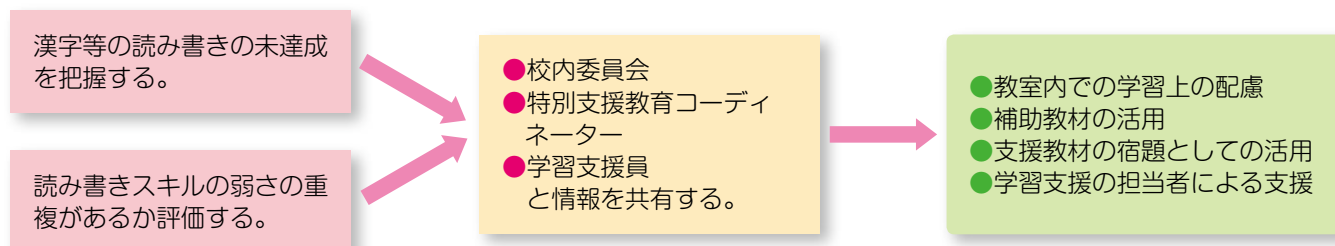
I 通常の学級で活用するアセスメントと支援

「読み書きアセスメント」の活用の仕方

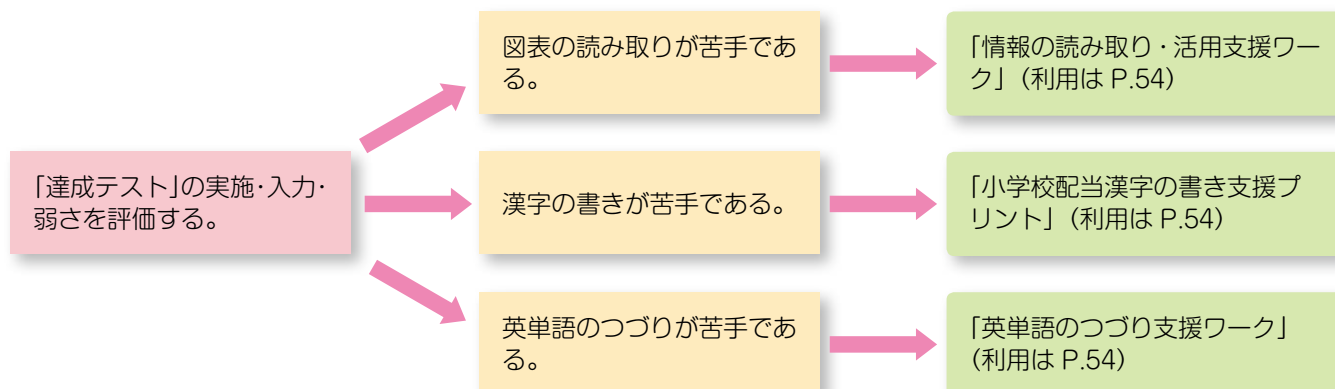
課題を知る！（チェックリスト＋達成テスト）



学習支援につなげる！（達成テスト）



支援教材につなげる！（達成テスト）



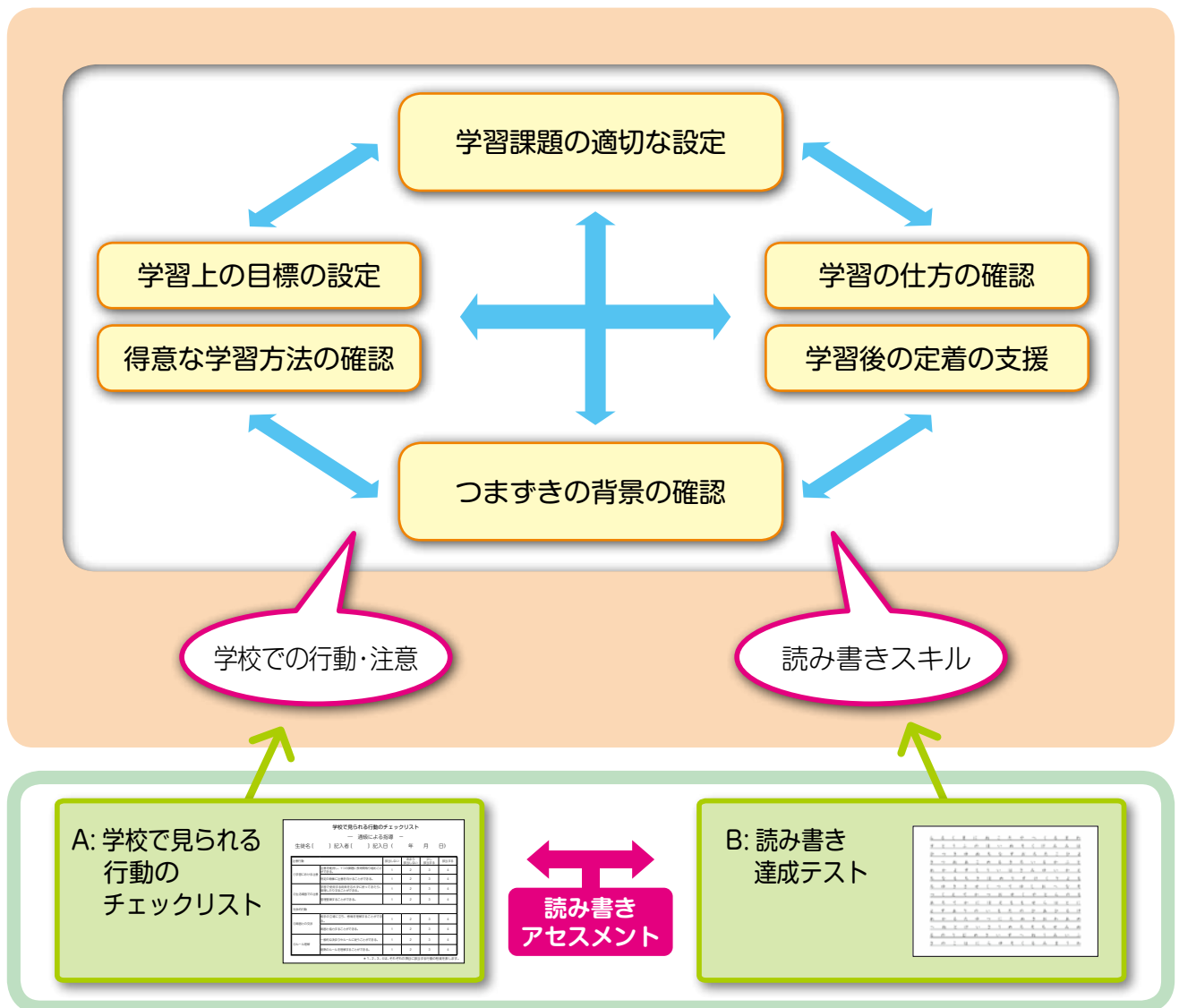
Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

1 通級による指導における学習指導について

通級による指導においては、つますきの背景を把握し、学習の仕方を指導することが大切です。その際、生徒が得意としていることを手掛かりにします。また、学習上の目標を立て、主体的に取り組むことを促します。これらの点を踏まえ、学習上の課題を明確にします。

スモールステップでの支援や、学習後の定着を図る指導を通して、努力が学習達成という成果につながることを経験できるようにします。学習を支援する上で「学校での行動」の特徴や「読み書きスキル」の習得状況、「注意・記憶」に関する情報はとても重要です。

「学校で見られる行動のチェックリスト」「読み書き達成テスト」により、学習状況を把握することで、効果的な学習支援につなげます。



図：通級による指導における学習指導の概要

Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

2 アセスメント ～生徒の特徴を知り、指導の工夫につなげる～

適切な指導・支援を実施するために、以下の二つのアセスメントを行います。

A「学校で見られる行動のチェックリスト」

B「読み書き達成テスト」

A…学校で見られる行動のチェックリスト

【課題】

- ①注意行動
- ②社会的行動

詳細→ P.22 ～ 25



通級による指導で活用する「学校で見られる行動のチェックリスト」では、学習場面や生活場面で見られる行動をより詳細に評価し、個に応じた支援につなげます。注意を維持することの弱さを①「注意行動」で、対人関係の弱さを②「社会的行動」で評価します。これらの項目に弱さがある場合には、P 22～25に示した「支援の提案」を参考にし、個別指導や小集団指導を行う際に配慮することが大切です。

B…読み書き達成テスト

【課題】

- ①文章読解テスト
- ②削除・一般化・構成テスト
- ③図表の読み取りテスト
- ④図表の削除・一般化・構成テスト
- ⑤情報の活用テスト
- ⑥平仮名の流ちょうな読みテストA
- ⑦平仮名の流ちょうな読みテストB
- ⑧漢字の読み書きテスト
- ⑨部首部品テスト
- ⑩聴覚記憶テスト
- ⑪視覚スキルテスト
- ⑫ローマ字の書きテスト
- ⑬英単語つづりテスト
- ⑭英語視覚性語彙テスト
- ⑮英語正書法知識テスト

詳細→ P.26 ～ 36



通級による指導で活用する「読み書き達成テスト」では、読み書きのつまずきの原因を更に詳しく評価し、適切な指導につなげます。「情報の読み取りの弱さ」を①～⑤の項目で、「特定の学習の習得に関係した弱さ」を⑥～⑮の項目で評価します。中学校版では英語の読み書きに関するスキルを評価するアセスメントを取り入れています。日本語の読み書きとは異なる、発音とつづりのルールの習得状況についても確認することができます。

A 学校で見られる行動のチェックリスト／チェックリスト(コピー用)

学校で見られる行動のチェックリスト

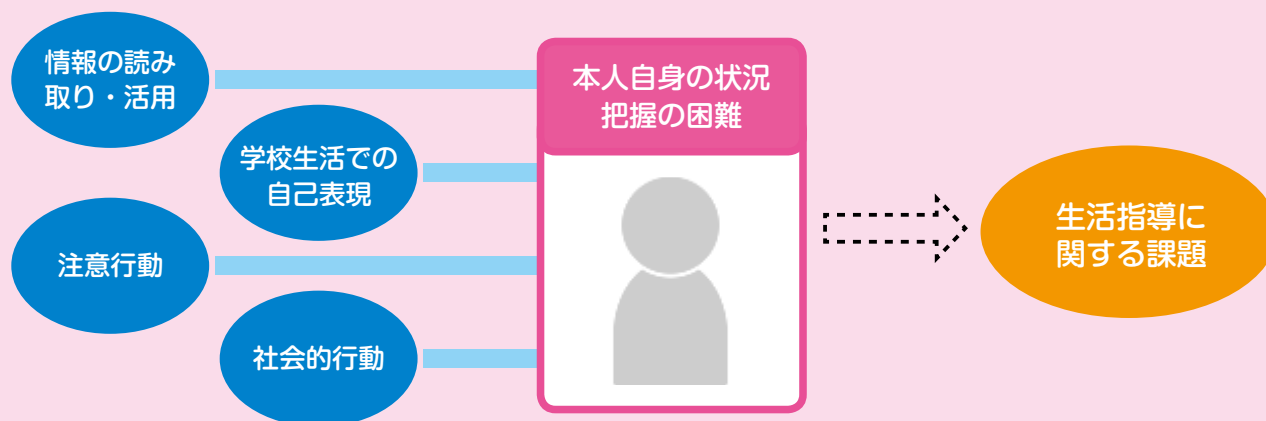
— 通級による指導 —

生徒名 [] 記入者 [] 記入日 (年 月 日)

注意行動		該当しない	あまり 該当しない	少し 該当する	該当する
①学習における注意	注意を維持し、一つの課題に長時間取り組むことができる。	1	2	3	4
	特定の物事に注意を向けることができる。	1	2	3	4
②生活場面での注意	学習で使用する用具を忘れずに持ってきたり、管理したりすることができる。	1	2	3	4
	整理整頓することができる。	1	2	3	4
社会的行動					
③周囲との交渉	相手の立場に立ち、感情を理解することができる。	1	2	3	4
	周囲と協力することができる。	1	2	3	4
④ルール理解	一般的な決まりやルールに従うことができる。	1	2	3	4
	暗黙のルールを理解することができる。	1	2	3	4

* 1、2、3、4は、それぞれの項目に該当する行動の程度を表します。

通常の学級用と通級による指導用の「学校で見られる行動のチェックリスト」の各項目を評価することにより、生徒が自分自身の状況を把握することに関する困難さが明らかになります。このことにより、生徒の生活指導に関して予防的な指導も含め、重点的に取り組むべき課題を把握しやすくなります。



Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

A：学校で見られる行動のチェックリスト／課題① 注意行動(学習における注意)

学校で見られる課題

不注意のために、授業中、大切な話を聞き逃してしまう



課題と関係のない行動をするために、集中して課題に取り組むことが苦手である

行動の特徴

- 授業中、指示された課題に取り組めない。(不注意)
- 課題を途中でやめてしまうことがある。(衝動性・多動性)
- 課題に関する指示について、最後まで聞いていないことがある。(衝動性・多動性)

状況の把握

行動のチェックリストの「注意を維持し、一つの課題に長時間取り組むことができる。」「特定の物事に注意を向けることができる。」の項目で把握します。

支援の考え方

【支援の手掛かり】

生徒の自己効力感を大切にします。始めに生徒と話し合って、目標を決めてから、時間や課題の量など、達成可能な目標を設定します。また、目標を達成する上での工夫(視覚的手掛かりや言葉掛け)を話し合います。

※自己効力感とは、「自分ならできる」という自信や自分への期待のことです。

【支援の工夫】

不注意

- ・ 話す内容などを、図やカードで示し、見通しをもたせる。
- ・ 残りの時間が分かるようにする。

衝動性・多動性

- ・ 集中する時間など、達成可能な目標を決める。
- ・ 目標を達成できたときには、積極的に褒める。

A：学校で見られる行動のチェックリスト／課題② 注意行動(生活場面での注意)

学校で見られる課題

忘れ物や、持ち物の
紛失が多い

整理整頓が苦手



行動の特徴

- 忘れ物が多く、学習に支障がでる。（注意やチェックの弱さ）
- 前の日に確認しても、忘れ物が減らない。（注意やチェックの弱さ）
- 整理が上手くできず、道具を出すのを手伝う必要がある。（予定を変更することの弱さ）

状況の把握

行動のチェックリストの「学習で使用する用具を忘れずに持ってきたり、管理したりすることができる。」「整理整頓することができる。」の項目で把握します。

支援の考え方

【支援の手掛かり】

忘れ物が多い生徒や整理整頓が苦手な生徒には、「注意やチェックの弱さ」や「予定を変更することの弱さ」があります。これらの弱さに対処します。

【支援の工夫】

注意やチェックの弱さ

- ・ 家の人の協力を得て、朝、家を出るときに、確認表にチェックするように促す。
- ・ 忘れ物がない日には、確認表にシールや確認印等で評価する。

予定を変更することの弱さ

- ・ 持ち物を置くべき場所をテープなどで区画し、準備しやすくする。
- ・ 予定に合わせて準備できたときには、確認表に評価の印をつける。

Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

A：学校で見られる行動／課題③ 社会的行動(周囲との交渉の弱さ)

学校で見られる課題

相手が嫌がっていることを理解している様子が見られない



グループ学習などで、協力して活動に取り組めない

行動の特徴

- 人の嫌がることを言ってしまう。（相手の気持ちの理解の弱さ）
- グループの中で役割をもち、協力して活動することが苦手である。（協力して活動することの苦手さ）

状況の把握

行動のチェックリストの「相手の立場に立ち、感情を理解することができる。」「周囲と協力することができる。」の項目で把握します。

支援の考え方

【支援の手掛かり】

周囲との交渉に弱さを示す生徒には、「相手の気持ちの理解の弱さ」がある場合や、「協力して活動することの苦手さ」がある場合があります。自分の苦手さに気付いているかどうかを生徒に聞きます。

自覚している場合には、苦手さを補う方法をアドバイスします。自覚していない場合には、うまくいっていない部分を指摘し、解決する方法をアドバイスします。

【支援の工夫】

相手の気持ちの理解の弱さ

- ・ 相手の気持ちは、発言の内容や表情・態度に表れていることをアドバイスする。
- ・ 相手の気持ちは、「どのような場か」、「どのような状況か」を考えると分かることをアドバイスする。

協力して活動することの苦手さ

- ・ グループ学習で、達成目標をステップに分けて、ステップごとの目標を到達した場合には、対象生徒を含むグループ全体を褒める。

A：学校で見られる行動／課題④ 社会的行動(ルール理解の弱さ)

学校で見られる課題

こだわりが強いので、予定の変更があると、気持ちを切り替えて、対処できない



教室や集団行動で、みんなが理解している暗黙のルールが分からない

行動の特徴

- こだわりが強いので、予定の変更があると、気持ちを切り替えて対処できない。
(強いこだわりと気持ちの切り替えの弱さ)
- 教室の中でのルールなど、一般的なルールを理解できない。(ルール理解の苦手さ)

状況の把握

行動のチェックリストの「一般的な決まりやルールに従うことができる。」「暗黙のルールを理解することができる。」の項目で把握します。

支援の考え方

【支援の手掛かり】

生徒には、「強いこだわりと気持ちの切り替えの弱さ」を示す者や、「ルール理解の苦手さ」を示す者が見られます。落ち着いているときに、ルールについて説明したり、気持ちの切り替え方について、あらかじめ、アドバイスをすると受け入れやすくなります。

【支援の工夫】

強いこだわりと気持ちの切り替えの弱さ

- ・ あらかじめ、気持ちを切り替える方法について話し合っておく。必要に応じて、その方法を提案したり言葉掛けしたりする。

ルール理解の苦手さ

- ・ あらかじめ理解が難しいルールについて、その内容と必要性を言葉で説明する。必要な場面で言葉を掛け、理解を促す。

Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

B：読み書き達成テスト／課題① 文章読解テスト▶▶▶P.12で解説(通常の学級での支援と同じ)

B：読み書き達成テスト／課題② 削除・一般化・構成テスト

行動の特徴

- 長い文章の要点を把握することが苦手である。
- 文章で、大切なところと大切なでないところの違いを区別することが苦手である。
- うまく文をまとめることが苦手である。

アセスメント方法

「削除・一般化・構成テスト」では、単段落の文章で、代表的なマクロルール(P.13、コラム1)である、削除ルール、一般化ルール、構成ルールの理解を評価します。

第三問 構成テスト

短い文章を読み、三つの文章の内容を全てまとめて表しているものを1～3の中から一つ選び、記号に○をつけましょう。

第一問 (1)

父は、駅に行つた。
父は、東京行きのきつぷりを買つた。
そして、父は、十時十分発に乗つていった。
父は、駅に行つて、きつぷりを買つた。
父は、電車に乗つて、東京へ行った。
父は、お弁当を買つた。

3 2 1

第二問 一般化テスト

短い文章を読み、三つの文章の内容をいちばん適切に表しているものを1～3の中から一つ選び、記号に○をつけましょう。

第二問 (1)

花子はつみ木で遊んだ。
花子は次に人形で遊んだ。
花子はその後、おままごとセットを出して、遊んだ。
花子はつみ木で遊んで、次に人形で遊んだ。
花子はつみ木遊びにあきてしまった。
花子はおもちゃで遊んでいた。

3 2 1

第一問 削除テスト

短い文章を読み、一番重要ではない文を選んで、□にチェック(✓)をつけましょう。

第一問 (1)

□ ぼくは友達太郎とボール遊びをしていた。
□ ボールは、黄色だった。
□ ボール遊びはとても楽しかった。

【支援が必要な理由】

単段落の文章について、マクロルール(P.13、コラム1)の理解が難しい生徒の事例で、長文の読解が苦手である可能性が高いことが報告されています。このことは、単段落の文章での指導が、長文読解に必要であるためです。

【支援の工夫】

単段落の文章を用いて、削除ルール、一般化ルール、構成ルールの理解を促す指導プリントにより、読解支援を行います。指導例は、通級による指導での指導方法(P.37 読解の支援①)で述べられています。

支援の考え方

B：読み書き達成テスト／課題③ 図表の読み取りテスト▶▶▶P.14で解説(通常の学級での支援と同じ)

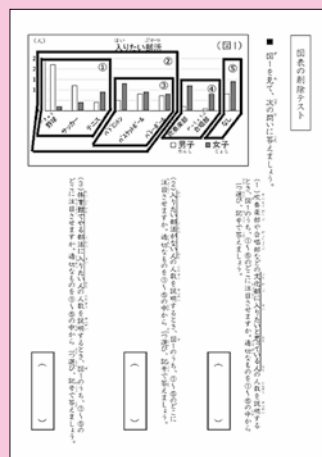
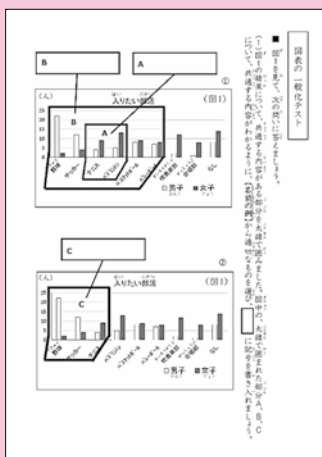
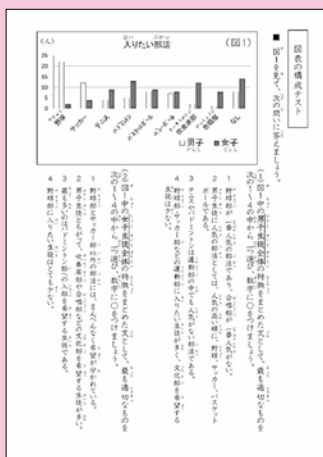
B：読み書き達成テスト／課題④ 図表の削除・一般化・構成テスト

行動の特徴

- 図表に示された情報の要点を把握することが苦手である。
- 図表の情報で、大切なところと大切でないところの違いを区別することが苦手である。
- 図表の情報をまとめることが苦手である。

アセスメント方法

「図表の削除・一般化・構成テスト」では、図表に示された情報の読み取り問題で、削除ルール、一般化ルール、構成ルールの理解を評価します。



【支援が必要な理由】

図表の情報について、マクロルール(P.13、コラム1)の理解が難しい生徒の事例で、図表の情報の、要点を把握することが苦手である可能性が高いことを指摘できます。このことはマクロルールの理解が、図表の情報の要点把握に必要であるためです。

【支援の工夫】

図表の情報を用いて、削除ルール、一般化ルール、構成ルールの理解を促す指導プリントにより、図表に表された情報の理解を支援します。指導例は、通級による指導での指導方法(P.38 読解の支援②)で述べています。

支援の考え方

Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

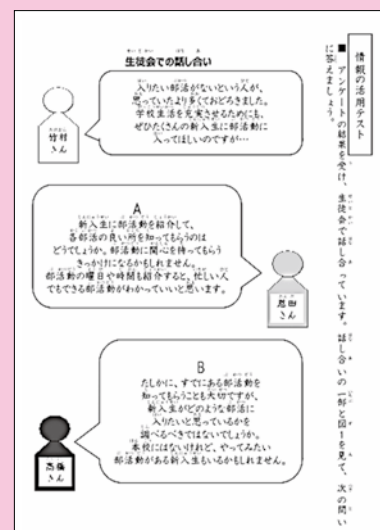
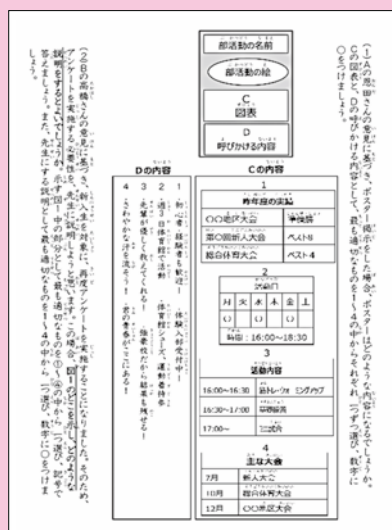
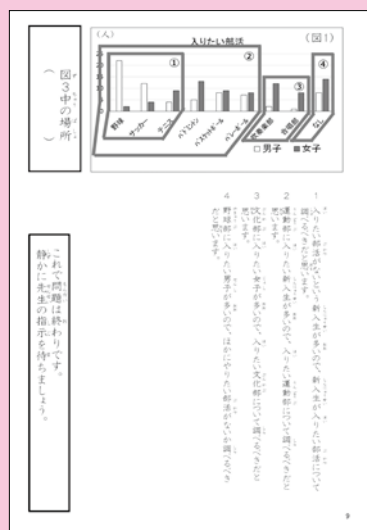
B：読み書き達成テスト／課題⑤ 情報の活用テスト

行動の特徴

- 課題を解決するために必要な情報がどれなのかを、判断することが苦手である。
- 必要な情報を表す図表を作成して、提案することが苦手である。

アセスメント方法

「情報の活用テスト」は、課題解決が必要な場面で、与えられた情報の中から、課題解決に向けた情報を選ぶ問題になっています。正しく情報を選ぶことができると得点となります。



【支援が必要な理由】

課題を解決したり、提案したりするために情報を活用することが必要になります。情報の理解が苦手であると、自分の目的に合わせて情報を活用することが難しくなります。

【支援の工夫】

目的に合わせて、どのような情報が必要であるのかを、判断する練習を行います。また、情報の種類に合わせて、一番適したグラフを選ぶことを指導します。通級による指導での指導方法（P.38 読解の支援②）が効果的です。

B：読み書き達成テスト／課題⑥ 平仮名流ちょうな読みテストA

行動の特徴

- 音読に時間が掛かり、読むことに対して消極的である。
- 文末を正確に読まないことがある。
- 一文字ずつ読むことがある。

アセスメント方法

「平仮名の流ちょうな読みテストA」とは、無意味な平仮名文字列の中から1分以内に、できるだけ多くの「意味のある単語」を探す課題です。正しく探すことができた単語数を得点とします。

ら る く ま に ね こ た や へ く る ま わ
す と う ふ の ほ い ぬ そ く け み み は
ひ つ き ゆ ぬ ち な す お ろ た こ ひ よ
き つ ね あ こ め る き ろ い る か ふ と
れ か よ す し う い は さ み ゆ い か え
ち な も ち き ほ め り す け く り よ も
ろ ゆ き さ せ く つ て ゆ し お へ な そ
つ く え て か つ お せ く や と ら の も
あ ろ て か に ほ え も も せ ら は と に
よ す あ り の い も た の ひ あ ひ る け
れ か る た ゆ つ に た ぬ き お わ あ め
へ ね と け い さ う め ろ そ ち せ み ぬ
る の り お め き い す へ ね う み い ふ
き の こ は に ら ゆ そ く る み ま う わ

支援の考え方

【支援が必要な理由】

中学生でも、平仮名の音読が苦手な生徒がいます。小学生のときから続いている困難ですので、生徒本人にとって、平仮名の音読に対する苦手意識は強くなっていることが考えられます。

【支援の工夫】

文章中出现くる単語を、流ちょうに読めるように練習することにより、文章の音読は改善します。平仮名の単語検索課題や単語完成課題をプリントで指導する支援が効果的です。文章の音読を必要としないので、実施が容易です。また、通級による指導での指導方法（P.39 平仮名・漢字の流ちょうな読みの支援①）が効果的です。平仮名单語の音読が改善すると、その単語を含む文章の音読の流ちょうさが改善します。

Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

B：読み書き達成テスト／課題⑦ 平仮名の流ちょうな読みテストB

行動の特徴

- 音読に時間が掛かり、読むことに対して消極的である。
- 文末を正確に読まないことがある。
- 適当に読む。

アセスメント方法

「平仮名の流ちょうな読みテストB」では、30秒間の制限時間で、有意味単語をできるだけ多く見付けます。4文字の平仮名单語について評価し、正しく見付けた単語数を得点とします。

← はじめ					
⑥ かめばこ かまぼこ	⑤ えんぼつ えんびつ	④ ひまわり ひまをり	③ にんじん にんじん	② たんぼぼ たんばぼ	① たまねぎ たまねぎ
⑫ にわとり にはとり	⑪ はなたち はなかち	⑩ ねくたい ねすたい	⑨ あさがお あたがお	⑧ しいたけ しひたけ	⑦ やきりも やしいち
⑬ そろばん そろはん	⑭ なわとび なはとび	⑮ どんぐり どむぐり	⑯ くつした くつひた	⑰ たいよう たいやう	⑱ だいこん だきこん

おわったら、ページをめくり、うらのもんだいへすすみましょう。

支援の考え方

【支援が必要な理由】

4文字の平仮名单語の読みに困難があると、長文の流ちょうな読みに大きな困難が生じます。

【支援の工夫】

平仮名の流ちょうな読み困難の程度との関連で、指導課題が決まります。平仮名の単語検索課題や単語完成課題を指導する支援は、効果的です。文章の音読を必要としないので、実施が容易です。指導例は、通級による指導での指導方法（P.40 平仮名の流ちょうな読みの支援②）を参考にしてください。

B：読み書き達成テスト／課題⑧ 漢字読み書きテスト▶▶▶ P.15で解説(通常学級の支援と同じ)

B：読み書き達成テスト／課題⑨ 部首・部品テスト

行動の特徴

- 漢字の書字において、部首を正しく書くことが苦手である。
- 漢字の書字において、間違った筆順で書く。

アセスメント方法

「部首・部品テスト」では、代表的な部首について、部首名を答えることを求めます。また、部首の位置を答えることを求めます。正答数を得点とします。

⑤	④	③	②	①
拾	泳	葉	話	休
()	()	()	()	()
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥
頭	広	熱	教	道
()	()	()	()	()
()	()	()	()	()

例

校 (きへん)

部首・部品テスト

次の漢字の部首を、○でかきこみましょう。また、()の中に部首の名前を書きましょう。

分からない問題には、？を書きましょう。

支援の考え方

【支援が必要な理由】

部首に関する知識が不足している場合には、漢字が正しく書けないことが多くなります。

【支援の工夫】

漢字の書字では、漢字が部品から構成されていることを理解し、部品に注意を向けることが大切です。部首の名前と位置の理解が困難な場合には、部品の知識を利用して書字することが困難になります。

部首の名前と位置について、プリントにより指導します。指導例は、通級による指導での指導方法 (P.45・46 漢字単語の書きの支援②③) を参考にしてください。

Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

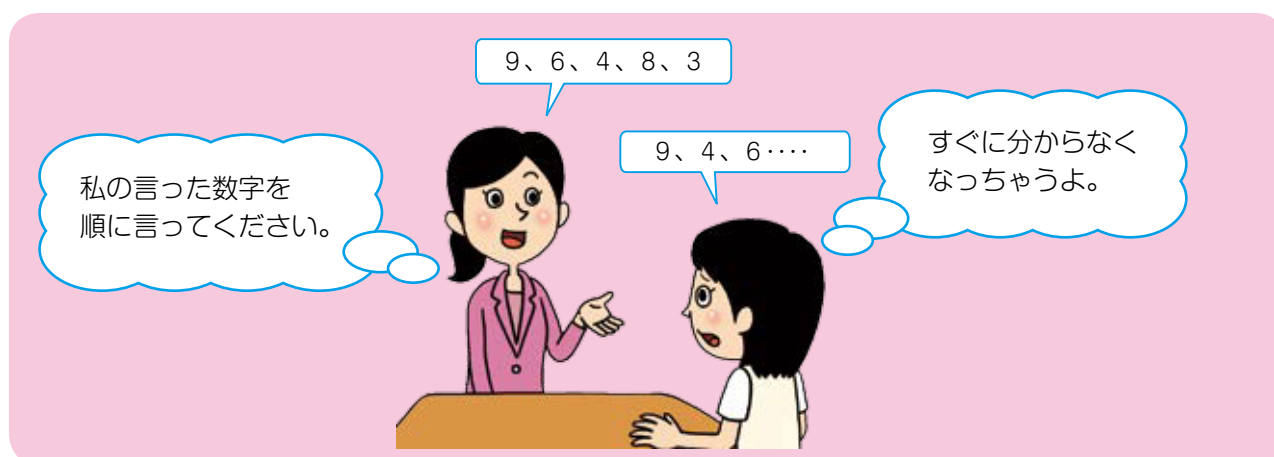
B：読み書き達成テスト／課題⑩ 聴覚記憶テスト

行動の特徴

- 忘れ物が多い。
- 理解していても、長い文で筋道立てて話すことが苦手である。
- 抽象性が高い漢字単語の読みや、学習課題など、機械的に記憶することが苦手である。

アセスメント方法

「聴覚記憶テスト」では、順唱課題と逆唱課題を用います。数詞が音声提示されるので、それを聞いて記憶します。その後、順唱課題では、聞いた順に復唱することを求めています。逆唱課題では、逆の順に復唱することを求めています。



支援の考え方

【支援が必要な理由】

一般に新しく聞いたことを記憶する際には、心の中で、数回反復することで記憶しようとしています。聴覚記憶の弱い生徒は、そのような学習が苦手です。従って、聴覚記憶の弱い生徒が示す学習の苦手さは、様々な学習に影響します。例えば、地名や生産地と特産品の関係、歴史上の人物の名前、年代、漢字単語の読み、英単語の読みやつづり、理科の学習単語の意味と読み、数学の公式などに困難が生じることがあります。

【支援の工夫】

以下の方法が効果的です。

- ①生徒がもっている知識と関連させる方法⇒意味の把握にもつながります。
- ②イラストを用いることにより、学習内容について、具体的な視覚的イメージをもたせる方法。
- ③生徒自身の経験しているエピソードと関連させて、記憶させる方法。

*③は特に、イラストで示しにくいときに効果的です。

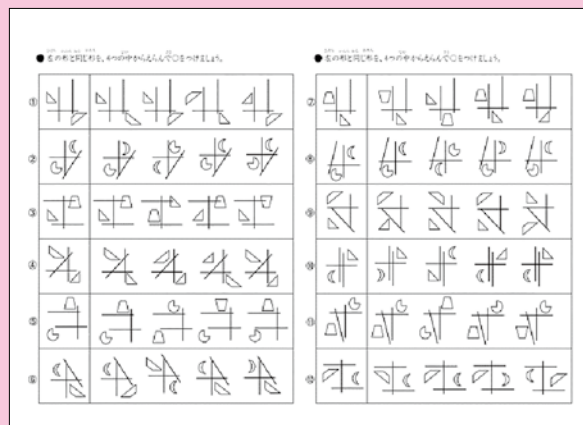
B：読み書き達成テスト／課題⑪ 視覚スキルテスト

行動の特徴

- 漢字の書字において、書けずに空欄になることが多い。
- 漢字の書字において、正しい字を書いたか、自分で判断することが困難である。
- 漢字の書字で、字の一部が不足したり、余分があったりする。

アセスメント方法

「視覚スキルテスト」では、正答数を得点とします。テスト用紙の左側にある形と同じ形のものを、4つの形の中から探す課題です。縦線、横線、斜め線の位置と関係させて、丸と四角の位置関係を判断します。このテストは、視空間の位置関係の把握を評価するものです。



支援の考え方

【支援が必要な理由】

視覚スキルテストでは、縦線、横線、斜め線の位置と関係させて、丸や四角の位置関係を判断する力を評価します。部品の位置関係の把握が弱い場合には、漢字の正確な書字が難しくなります。書いた字について正しい字であるのか、正確に判断することが苦手になります。

【支援の工夫】

漢字の書字では、漢字が部品から構成されていることを理解し、部品に注意を向けられることが重要です。部品の位置関係を把握することが弱いので、部品の把握が困難になります。その場合、以下の指導が効果的です。

①言語的な手掛かりを利用して、部品の関係を把握できるようにする指導

②視覚的イメージを手掛かりとして、部品の関係を把握できるようにする指導

指導例は、通級による指導での指導方法（P.46 漢字単語の書きの支援）参照してください。

Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

B：読み書き達成テスト／課題⑫ ローマ字の書きテスト（ローマ字の知識）

行動の特徴

- 文字と音の対応が規則的な単語でも、読んだり書いたりすることが苦手である。
- 無回答が多い。アルファベットの誤りが多い。

アセスメント方法

「ローマ字の書きテスト」では、清音表記と特殊音節表記について、テストをします。3モーラ（拍）の単語を書くことが求められます。

ローマ字の書きテスト

（問題）

以下のひらがなをローマ字になおして、（ ）の中に入れてください。

（例）わみで （ wamide ）

① ざいな	（ ）
② のがり	（ ）
③ しゅたむ	（ ）
④ めおっけ	（ ）
⑤ るんき	（ ）
⑥ うこぶ	（ ）
⑦ とげひ	（ ）
⑧ すひゃて	（ ）
⑨ みっれく	（ ）
⑩ よまん	（ ）

支援の考え方

【支援が必要な理由】

アルファベットの文字と音の対応により英単語を書くことが困難になる場合があります。

【支援の工夫】

アルファベットの文字と音の対応を促します。

① アルファベットカードを呈示し、文字の音を答える指導

② 文字の音を口頭で呈示し、アルファベットカードを選ぶ指導

文字一音対応に基づいて、音を組み合わせる指導が効果的です。

① アルファベットカードを組み合わせ、文字と音の対応が規則的な英単語を構成する指導

⇒ 聞いた情報を覚えることが苦手な場合には、カタカナをヒントとして示すことが有効です。合わせて、英語の発音とつづりの対応を促す指導を行います。対応を促す付属のPCソフトを、P.37で紹介しています。

B：読み書き達成テスト／課題⑬ 英単語つづりテスト▶▶▶ P.16で解説(通常学級の支援と同じ)

B：読み書き達成テスト／課題⑭ 英語視覚性語彙テスト(単語の視覚イメージの形成)

行動の特徴

- 無回答や、ローマ字に依存したつづりが多い。また、つづりの半分以上が間違っていることがある。
- 英語の教科書の音読が遅い。

アセスメント方法

「英語視覚性語彙テスト」では、1分間に見付けることのできた単語数を得点とします。

一行の中にスタシヨ(ノ)を二つ入れると、三つの英単語が見つかります。
できるだけ速く、一行に二つノをいれましょう。制限時間は1分間です。
※先生の合図で始めてください※
※先生が「やめ」と言ったら解くことをやめましょう※

(例) food/hat/ant

b e d c a t r o o m
p a r k c a p b o y
t e a l o v e b a g
m o o n b a g c a r
c a t p a r k t e a
l o v e b a g b o y
c a p p a r k c a r
b a g r o o m b o y
c a p t e a p a r k
b a g b o y m o o n
c a r n a m e b e d
t e a b a g r o o m
m o o n b o y c a t
b a g h e r n a m e

次のページに進みましょう→

※視覚性語彙とは、視覚的に捉えて理解している単語の数のこと

支援の考え方

【支援が必要な理由】

見た目から発音を推測しづらい単語について、誤りが多くなります。また、自分が書いたつづりの誤りに気づき修正するなど、アルファベットや英単語を見て学ぶ学習が苦手になります。

【支援の工夫】

視覚的に捉えて記憶する指導が効果的です。

- ①文字を穴埋めすることで、英単語を完成する指導
- ②誤ったつづりを呈示し、正しく訂正する指導
- ③英語視覚性語彙テストのような単語を探す課題による指導

⇒基礎的な英単語の中にも、発音しづらい単語があります。学習する単語を決めて、課題を反復練習することで、単語の視覚的イメージを高めます。

Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

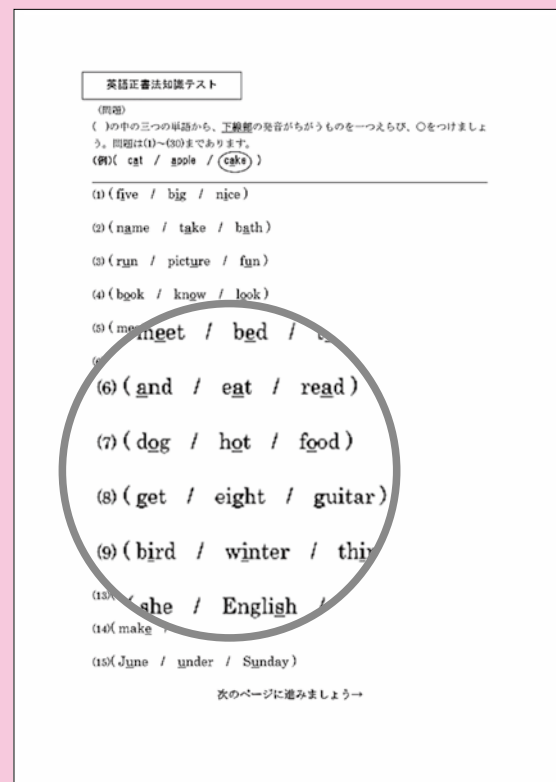
B：読み書き達成テスト／課題⑮ 英語正書法知識テスト（英語独自のつづりのルールと知識）

行動の特徴

- 文字と音の対応が規則的な単語はつづれるが、不規則な単語の読みやつづりが苦手である。
- 母音を挿入する(例:bedをbeddoと書く)など、ローマ字に依存したつづりが多い。

アセスメント方法

3つの単語の、それぞれ一文字に下線が引かれており、その文字の読みが、他の2つ単語とは異なる単語に丸を付けます。



支援の考え方

【支援が必要な理由】

tradition、action など、単語の韻が共通であることに気付くのが苦手である可能性があります。単語の韻の共通性に気付くことは、特に、文字数の長い単語の学習で必要になります。

【支援の工夫】

つづりのルールを理解させる指導が効果的です。

- ① 文字の組み合わせと、それに対応する発音を一緒に示して教える指導
- ② 同じつづりのルールをもつ単語の共通性に気付かせる指導

* 聞いた情報を覚えることや操作することが苦手な場合には、カタカナをヒントとして示すことも有効です。

【英語の発音とつづりの対応を学習する教材の紹介】

視覚性語彙や正しいつづり方に関する学習とともに、英単語の聞き取りも大切な学習課題です。本アセスメントの支援教材では、中学生の代表的な基礎英単語について、ネイティブスピーカーの発音を聞いて、英単語つづりを選んだり、英単語つづりを見て、ネイティブスピーカーの発音を選んだりする課題を用意しました。これは付属のCD-ROMに入っているPCソフト教材で利用できます。カナ表記をヒントにして学習した後には、カタカナを用いない英語の発音とつづりとの対応学習が必要です。

	課題の内容
①英単語つづりとネイティブスピーカーの発音マッチング学習	英単語つづりが提示されます。次いで、ネイティブスピーカーの発音（正）と発音（誤）のボタンが提示されます。学習者は音を聞いて、英単語つづりに対応する英語話者の発音のボタンを選択します。正しいボタンを押すと、正答音がします。
②ネイティブスピーカーの発音と英単語つづりのマッチング学習	ネイティブスピーカーの発音が提示されます。次いで、英単語のつづり（正）とつづり（誤）のボタンが提示されます。正しいボタンを押すと、正答音がします。
③ネイティブスピーカーの発音の選択学習	英単語つづりが提示されます。次いで、ネイティブスピーカーの発音と日本語話者の発音が提示されます。学習者は英単語つづりを見て、ネイティブスピーカーの発音に対応するボタンを選択します。正しいボタンを押すと、正答音がします。

C：支援の例／読解の支援①

指導例①

「話の要点を話す課題」による指導

- ①5文程度の短い文章を紙で提示する。
- ②指導者が1回読む。
- ③要点(伝えたかったこと)と関係がない文をマークする。
- ④いくつかの表現を上位のカテゴリーに相当する言葉で書き換える。
⇒競技に出場し、また、係の仕事をしました。
- ⑤いくつかの文を、違った文章で短く表現する。
⇒充実した時間を過ごしました。
- ⑥書き換えた文を基にして要点を話す。
★要点とは、「大切なこと」や「伝えたいこと」。
★要点は、読み手により変化するので、指導では個々に判断する。

！ 指導のポイント

要点をまとめる上で、効果的なルールがあります。

- ルール①：無関係な情報を外します。
 - ルール②：カテゴリーの言葉で置き換えます。
 - ルール③：いくつかの文を違う文章で短く表現します。
- これらのルールは、「マクロルール」と呼ばれています。

体育祭の思い出

昨日、体育祭がありました。

去年の体育祭は、雨でした。

わたしは、徒競走、リレー、綱引きに出場しました。

また、会場のアナウンスや、審判を担当しました。

あっという間に、体育祭は閉会の時間になりました。

[問題]

昨日の体育祭について「わたし」が伝えたかったことを要約しましょう。

【伝えたかったこと】

昨日、わたしは体育祭で、競技に出場したり係の仕事をしたりして、充実した時間を過ごすことができた。

⇒「マクロルール」については、P.13のコラムを参照

Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

C：支援の例／読解の支援②

指導例 ②

「情報の読み取り・活用ワーク」による指導

「図や表に書いてある情報の読み取り、目的に合わせて必要な情報を選択し、その情報を基にして自分の考えや気持ちを伝える」という「情報の活用」を指導します。ステップ1～3の順に課題に取り組みます。練習ワークには、レベル1～3があります。

売店の店員さんをお願いしたいこと：甘くないお菓子を増やしてください

レベル1の例

売店で売られているお菓子の個数

せんべい 14%
クッキー 14%
ビスケット 15%
菓子パン 28%
シュークリーム 5%
カステラ 5%
ポテトスナック 13%
果てしなく 6%

※解きおわったら、一番後ろのページを隠して答え合わせをしましょう。

Aくんの気持ち
「おなかですと、いつも売店でお菓子を買うのですが、売店には甘いいお菓子がたくさんあります。甘くないお菓子は2種類しかありません。甘くないお菓子が増えたらいいのに、と思います。」

ステップ1: ①と②の部分を表す言葉を考えて、□の中に書こう。
わからないときは、「Aくんの気持ち」を参考にしよう。

ステップ2: Aくんの気持ちを伝えるために必要な情報は①、②のどちらでしょう。

ステップ3: 以下の文を、Aくんの気持ちと円グラフに合うように完成させよう。

() お菓子の個数は全体の()%しかないのに、もう少し、種類を増やして頂けませんか??

情報の読み取り・活用のステップ

ステップ1

図や表に表されている情報を、テーマ別にまとめる。

ステップ2

テーマの中から、自分の意見を表すのに必要な情報を見つける。

ステップ3

情報を要約し、それを根拠として自分の意見をまとめる。

練習ワークのレベル

レベル1

説明を読みながら、情報活用のステップ①②③を実行します。

レベル2

説明のない条件で、情報活用のステップ①②③を実行します。

レベル3

レベル1・レベル2で行ってきたことを自力で思い出し、文章を組み立てます。

司書の先生をお願いしたいこと：最近出版された本をもっと入荷してください

レベル3の例

図書館の蔵書の出版された年

2001～2010年 4.1%
2011年～ 3.1%
1970年～ 17.2%
1971～1980年 23.1%
1981～1990年 24.8%
1991～2000年 27.7%

※解きおわったら、先生に確認してもらいましょう。

Aさんの気持ち
「うちの学校の図書館は、古い本ばかりで、読みたいと思える本がありません。もっと最近出版、新しい本があればいいのに、と思います。」

■問題■
グラフに示されている情報を使って、Aさんの主張を文にしましょう。難しいときは、チェックポイントを参考にしましょう。

チェックポイント	チェック
図表に示されている情報をいくつか使った	
図表の項目をいくつかまとめて、別の言葉で言いかえた	
今の状況、気持ち、お願いしたいことを1～2文で書いた	



指導のポイント

指導のためのワークとして、レベル1～レベル3を設定しました。状況に合わせて利用します。

C：支援の例／平仮名・漢字の流ちょうな読みの支援①

文章を流ちょうに読むことが苦手な場合、文章中に出てくる平仮名单語や漢字単語について、まとまりとして読むことができるように練習することが効果的です。ここでは、まとまりとして読むことを促すプリント課題(指導例①)、カードを用いる課題(指導例②)を紹介します。

【平仮名・漢字の流ちょうな読みの背景と支援】



「文章の音読が不得意」には、2つの背景があります。

文章の音読が不得意

「一文字を読む」のが不得意

「平仮名单語をまとまりで読む」のが不得意



単語の読みを促進することで、文章の音読の改善をはかります。

指導文の音読が不得意

指導文中の単語のトレーニング

指導文の音読が改善

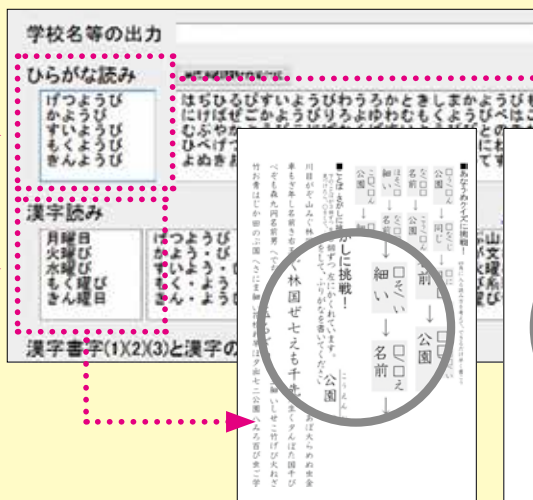
未指導文中の単語の読みが改善



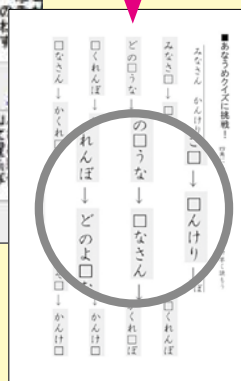
単語の読みの促進に、効果的な2つの課題作成の仕方です。

付属PCソフトでプリントを作成できます！

- 【作成の仕方】(操作はP.54を参照)
- ①「プリント教材作成ソフトを起動」をクリックする。
 - ②「読み書き支援プリントによる指導」をクリックする。
 - ③「作成・編集」をクリックする。
 - ④指導したい単語を入力する。



「漢字単語の読み」プリント



「平仮名の読み」プリント

指導例① 「単語完成課題」と「単語検索課題」による音読支援の方法

- ①指導文を読ませ、音読指導を行う前の音読時間を記録する。
- ②「単語完成課題」と「単語検索課題」を用いて音読指導を行う。
- ③再度、指導文を読ませ、音読時間を記録する。

★音読指導前後の音読時間を比較し、指導の効果を確認する。

！ 指導のポイント

読みづまりや、読み誤りのある単語について練習するとよいでしょう。単語をまとまりとして捉えられるようになると、文章の読みが流ちょうになります。



Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

C：支援の例／平仮名の流ちょうな読みの支援②

指導例 ②

「フラッシュカード課題と単語完成課題」による指導

- ①平仮名单語カード(仮名单語を書いたカード)を10枚程度作成する。
- ②平仮名单語カードを短時間(1～2秒程度)、順に提示して読ませる。【フラッシュカード課題】
- ③読めるようになったら、単語の一部の仮名文字をシールで隠す。隠されていない文字を手掛かりにして、単語を完成させて読むようにする。【単語完成課題】
- ④読めない場合は、何も隠されていない平仮名单語カードを提示して読ませる。



！ 指導のポイント

単語をまとまりとして読むことができるようになると、文章の読みが流ちょうになります。単語完成課題は、生徒の興味を引く課題なので効果的です。

指導例 ③

「単語検索課題」による指導

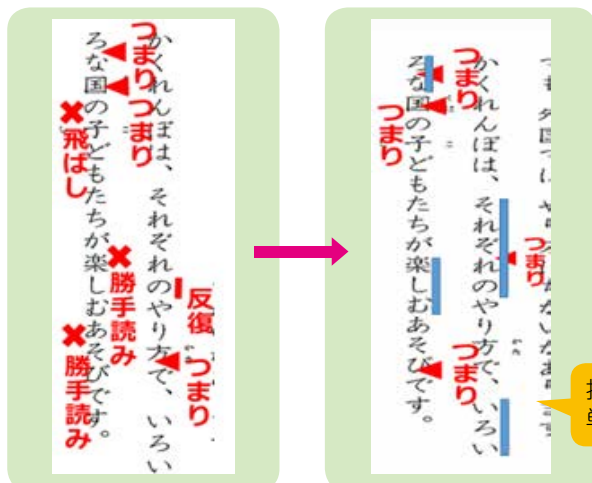
- ①仮名文字のリストを作成する。
 - ・読ませたい文章にある単語を、ターゲット単語として示す。
 - ・ターゲット単語と無意味単語を含むリストを課題として示す。
- ②1分間にできるだけ多くのターゲット単語を見付けるように促す。

！ 指導のポイント

実際に音読することを生徒に求めないので、取り組みやすい課題です。くり返し行くと、見付けられる単語が増えていくので、個数を増やし、成果を記録して生徒に示すことで、モチベーションを高めます。



平仮名の流ちょうな読みが困難な事例



指導した単語

【文献 (6)】

生徒 A: 音読に強い不得意を示す。「勝手読み」や「音のつまり」が多いので、文章の意味の把握が困難である。勉強に対して拒否的傾向が見られる。

二文字の正誤判断	
基準: 5	5
四文字の正誤判断	
基準: 5	4

単語を流ちょうに読む指導が進むと、四文字単語の読みがよくなります。その結果、文字数の多い単語が読みやすくなり、文章音読の改善につながります。

C：支援の例／漢字単語の読みの支援①

【漢字単語の読みの背景と支援】



漢字の読みの習得には、聴覚記憶が関係します。聴覚記憶が弱いと、視覚的イメージ性の低い単語の読みが不得意になります。

聴覚記憶
が弱い

イメージ性の高い単語は読める。

例：大雨、森林、地球、電球

イメージ性の低い単語の読みが不得意。

例：以前、合成、性質、何回



漢字の読みが弱いことの背景となる要因は、①「平仮名読みが流ちょうでない」、②「聴覚記憶の弱さがある」の二通りがあります。

平仮名読みが
流ちょうでない

平仮名読みのテストの得点を付属 PC ソフトに入力したところ、10%タイル以下となり漢字の読みの弱さを把握しました。

平仮名読みの指導が大切です。

聴覚記憶に
弱さがある

聴覚記憶のテストの得点を付属 PC ソフトに入力したところ、10%タイル以下となり漢字の読みの弱さを把握しました。

聴覚記憶の弱さに配慮した指導が大切です。



漢字の読みの指導において、生徒の正しい読みを引き出す手掛かりとして、イラストや絵は、効果的です。指導では、他に、「生徒自身が経験したエピソード」もよい手掛かりになります。

生徒が経験したエピソード

漢字単語

+

イラスト

漢字単語
の読み

反復して経験

定着するようになった。

漢字のイメージ性が高くなる。



Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

C：支援の例／漢字単語の読みの支援②

漢字単語読みが苦手な場合は、絵やイラストを用いて漢字単語のイメージ性を高めたり(指導例①②)、漢字単語と含む例文を手掛かりに漢字の読みの学習(指導例③)を行ったりすることが効果的です。また、漢字単語の意味的なカテゴリーや、漢字単語に関するエピソードを手掛かりに指導(指導例④⑤)を行うことも有効です。ここではこれらの指導例を紹介します。

指導例①

「漢字単語と絵の連合を形成する課題」による指導

- ①絵カードを見せ、何の絵か確認するように指示する。
→ここで利用する絵カードは、漢字の読みカードを表すものとする。
- ②絵カードを示してから、複数の漢字カードを生徒の前に置き、絵カードに対応する漢字カードを選ぶことができるように練習を指示する。
★ここでは、絵カードの名前を言いながら、漢字カードを選ぶように促す。
- ③漢字カードだけを見せて読むように指示する。



！ 指導のポイント

絵は、漢字の読みを引き出す手掛かり(プロンプト)として用います。分かりやすい絵を用いることがポイントです。

指導例②

「絵の視覚記憶を手掛かりとする課題」による指導

- ①絵カードを見せ、何の絵か確認するように指示する。
- ②絵カードの上に、漢字カードをずらして置き、漢字カードを読むように指示する。
★生徒は絵を手掛かりに漢字カードを読む。
- ③②よりも絵の面積が小さくなるように漢字カードをずらして読むように指示する。
★絵の面積が小さいので、絵の記憶に基づいて読む。
- ④最後に、漢字カードだけで読むことができるように練習を指示する。



！ 指導のポイント

絵を漢字カードで隠す面積を少しずつ大きくしていきます。(絵の面積を小さくしていく)

漢字単語の読みが困難な事例

二文字の正誤判断	
基準: 20	25
四文字の正誤判断	
基準: 14	25
漢字読み_総合	
基準: 16	15
漢字読み_高心像	
基準: 7	10
漢字読み_低心像	
基準: 9	4

生徒 B：漢字の読み書きが不得意である。分からない問題があると、注意集中がとぎれる。テストの実施の際に、問題文の理解が困難である。



順唱が困難
→聴覚記憶の著しい弱さがある
→視覚的イメージを高める支援

4文字の正誤判断テストが良好なので、平仮名文の読みはできています。具体的にイメージしやすい漢字単語(高心像)の読みは良好ですが、イメージしにくい漢字単語(低心像)の読みが困難であることから、漢字単語の読みの指導が必要です。

C：支援の例／漢字単語の読みの支援③

指導例 ③

「単語の絵と例文を手掛かりとする読み課題」による指導

- ① 絵と例文が書いてあるカード(絵＋例文カード)を見せ、それが何という単語を表すか確認するように指示する。
- ② 生徒の前に複数の漢字カードを置く。
- ③ 絵＋例文カードを示し、生徒にカードに対応する漢字カードを選ばせ、その漢字を読ませるように指示する。
(例)会社の絵と「かいしゃで、はたらく」を示して、「会社」の漢字カードを取るように促す。
- ④ 漢字カードだけを見せて読むように指示する。



かいしゃ



! 指導のポイント

絵＋例文カードの代わりに、生徒が経験したエピソード(経験した内容・時期・場所・その時の感情等)を手掛かりとして、カードを作成すると分かりやすくなります。抽象的な単語は、イラストを探すのが大変なので、漢字単語の読みをエピソードと関連付ける方法は効果的です。

指導例 ④

「カテゴリ課題」による指導

- ① カテゴリ名カードと、そのカテゴリに属する複数の漢字カードを用意し、生徒の前に漢字カードを置く。
- ② カテゴリ名カードを提示し、生徒に対応する漢字カードの読みを言いながら選ぶように指示する。
(例)カテゴリ名カード「はたらく」を提示して、「会社」「出勤」「給料」などの漢字カードを選ぶように指示する。



! 指導のポイント

カテゴリ名は、生徒にとって身近なものをうけると効果的です。

指導例 ⑤

「エピソード定義」による読み指導

- ① 指導したい漢字単語のカードを用意する。
- ② 1枚ずつカードを生徒に見せ、その単語に関連するエピソードを生徒に尋ねる。そのエピソードはメモしておく。
- ③ 全ての漢字単語についてエピソードを聞き終えたら、今度はそのエピソードを教員が読み、該当する漢字単語カードを選ぶように指示する。

! 指導のポイント

イラストなどに表しにくいイメージ性の低い単語も、生徒自身のエピソードと関連させると、覚えやすくなります。生徒がエピソードを思い付かない場合は、教員がエピソードを話し、手本を示すとよいでしょう。



Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

C：支援の例／漢字単語の書きの支援①

【漢字単語の書きの背景と支援】



漢字単語の書きの不得意には、三つのタイプがあります。
不得意のタイプに応じた指導が効果的です。

【文献 (3)】

タイプ1

平仮名の読みが不得意



漢字の形と読みの関係の学習が不安定になる。

背景や
実態

漢字の読みが不得意

タイプ2



漢字の読みから正しい形を想起することが不得意で、書くことが困難になる。

- 漢字を全体的・視覚的に捉える傾向が強い。
- 漢字の細部に誤りが生じ、実在しない漢字を書くことが多い。

ADHDのある生徒

「漢字の部品に注意を向けさせる課題」「漢字の組み立ての記憶を促す課題」を教室中に点在させることで、ラリーのように短時間で順に取り組ませる指導が効果的である。

効果的な指導

漢字の部品に注意を向けさせる指導

- 漢字の部品をイラストに置き換えたカードを利用する。イラストを提示し、漢字を書くことを求める。
- 部品の一部が欠落した漢字カードを示し、正しい漢字を書かせる（漢字完成課題）。(P.45 指導例②)

漢字の組み立ての記憶を促す指導

- 漢字部品を見比べながら組み立てさせる手続きが効果的である。
- ⇒透明なシートに漢字の部品を印刷して作成したカードを、制限時間の中で、書き順に沿って組み合わせるよう教示する。(P.45 指導例③)

タイプ3

読みは不得意でないが、書きが不得意



- 漢字の線などの位置関係の把握が困難。
- 複雑な漢字の形を記憶することが不得意である。

背景や
実態

- 漢字の部品の位置関係を誤ることが多い。
- 書いた字が正しい字なのか、判断するのが困難である。

効果的な指導

漢字の部品を言語的手掛かりに置き換える指導

- 見て覚えることが苦手な可能性があるので、聴覚記憶を用いた支援が有効である。

部品の位置関係を色で教える指導

C：支援の例／漢字単語の書きの支援②

漢字の書字に苦手さがある場合には、次の4つのポイントが効果的です。

- ①漢字の書きプリントによる指導（指導例①）
- ②漢字が部品から構成されていることを理解し、部品に注意を向けさせる指導（指導例②、③）
- ③部品の組み立てを学習するうえで、漢字の形を把握できるようにする指導（指導例④、⑤、⑥）
（見て位置関係を把握することが苦手な生徒⇒言語的な手掛かり、聴覚記憶が弱い生徒⇒視覚的イメージを手掛かり）
- ④漢字書字の定着を図る指導（指導例⑦）

指導例①

「単語の絵と例文を手掛かりとする読み課題」による指導



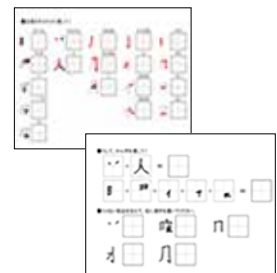
漢字の書きの促進に効果的なプリントの作成の仕方です。



付属のPCソフトでプリントを作成できます！

【作成の仕方】（操作はP.54を参照）

- ①「プリント教材作成ソフトを起動」をクリックする。
- ②「読み書き支援プリントによる指導」をクリックする。
- ③「作成・編集」をクリックする。
- ④指導したい単語を入力する。



指導例②

「カテゴリ課題」による指導

- ①単語の絵が描いてある絵カードを見せて、何の単語を表すかを確認するように指示する。
- ②複数の漢字カードを置いておき、絵カードを示して、その絵カードに対応する漢字カードを選び、その漢字カードを見ながら漢字を書くように指示する。
- ③一部が不足した漢字単語（欠落漢字）カードを複数置いておき、絵カードを示して、その絵カードに対応する欠落漢字カードを選び、その欠落漢字を見ながら漢字を書くように指示する。
- ④③と同じ手続きで、欠落漢字の欠落部分を大きくしていく。
- ⑤漢字単語を読んで、その漢字を書くように指示する。



部品カード



指導のポイント

生徒の習得に合わせて、欠落部分の大きさを決めます。

指導例③

「カテゴリ課題」による指導

- ①生徒の前に、漢字の部品カードを複数置く。
- ②漢字の読みカードを呈示し、併せて漢字カードを短時間見せる。漢字カードは、欠落漢字カードにして、難易度を上げることもできる。
- ③見せた漢字カードを覚えたら、手元の部品カードを組み立てて漢字をつくるよう指示する。



部品カード



指導のポイント

透明なカードに部品を書いておく、重ねても見えるので組み立てが容易になり、分かりやすくなります。

Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

C：支援の例／漢字単語の書きの支援③

指導例④ 「漢字の間違い箇所を探す課題」による指導

- ①漢字の一部が間違った文字を複数作成し、文字リストとして生徒に見せる。
- ②見付けた間違い箇所を印を付けさせ、正しい文字を下に書くように指示する。
- ③時間を決めて、見付けることのできた漢字の数を記録し、学習成果を見せると、モチベーションがあがる。



！ 指導のポイント

間違いやすい箇所をあらかじめ示すなどして、課題に上手く取り組めるように支援します。

指導例⑤ 「漢字の形絵カードを利用した課題」による指導

- ①漢字の形の特徴を示した絵カードを作成する。(漢字の形絵カード)
(例)魚であれば、漢字の部品を含んだ魚の絵
- ②絵カードを示して、生徒に、読んでから漢字を書くかくように指示する。
- ③次に漢字の読みを言い、生徒が対応する絵カードを選んでから、漢字を書くように指示する。



！ 指導のポイント

イラストは、上手く部品を描き込んで、漢字の読みと意味に対応させます。記憶の手掛かりになるように、少しデフォルメするとよいです。

【漢字の形絵カード】の例



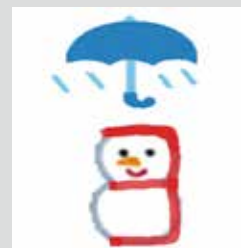
浴 シカがやってくる
谷のある温泉に
入浴しに行こう



車



早



雪 雨かな？
ヨ〜く見たら
雪だった！

指導例⑥ 「漢字の形を言葉で把握する課題」による指導

- ①漢字を部品に分け、部品ごとに名前を付ける。
- ②付けた部品の名前を使って、漢字の部品名カードを作る。
(例)「杉」→「木に、ななめ3本」
- ③生徒の前に部品名カードを複数枚置いてから漢字を見せ、対応する部品名カードを取るように指示する。
- ④生徒の前に漢字カードを複数枚置いてから部品名カードを読み、対応する漢字カードを取るように指示する。



！ 指導のポイント

部品名カードを作る際は、生徒の考えを聞きながら、分かりやすく言語化しやすいように部品を分けます。また、部品は、細かく分けすぎないようにします。

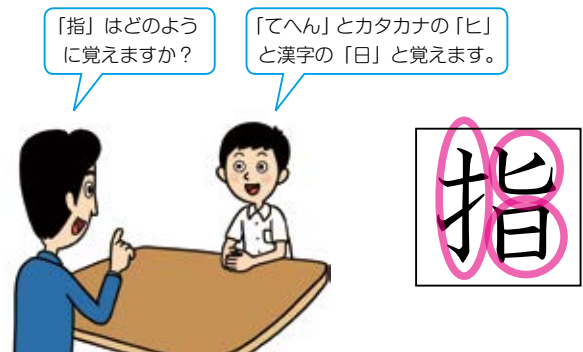
C：支援の例／漢字単語の書きの支援④

指導例 ⑦

「漢字の覚え方のリマインド」による指導

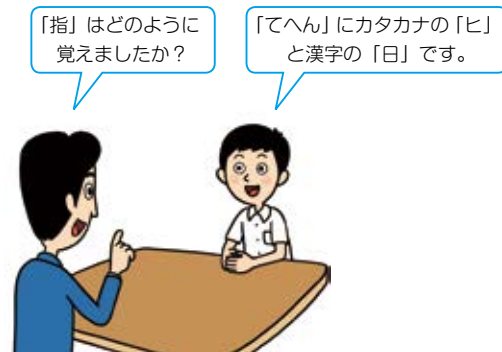
【①生徒と話し合い、漢字の覚え方を決める】

- ① 漢字の読み方や意味を教え、正しく答えることができるか確認する。
- ② 漢字が書かれたプリントを用意し、生徒に、この漢字をどのようにに分けるか尋ね、分けた部分を丸で囲むように指示する。
- ③ 分けた部分の部品の覚え方を考え、プリントに書くように指示する。
- ④ 漢字の覚え方を尋ねる。



【②1週間に1～2回、漢字の覚え方を思い出す】

- ① 漢字の覚え方を尋ね、覚え方を思い出すよう促す。
- ② 思い出すことができなかった漢字については、再度、覚え方を生徒に教える。



【③漢字を書くことができるか確認する】

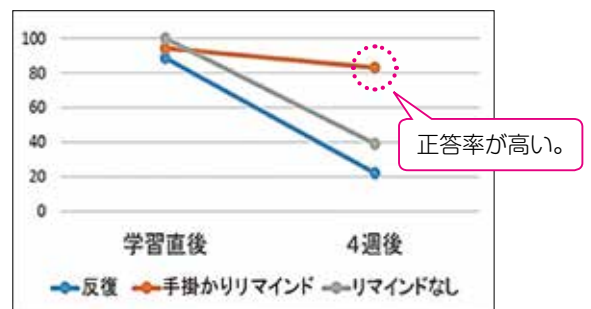
- ① 漢字の覚え方を学習した日から、1週間後に漢字が書けるか確認する。

！ 指導のポイント

生徒自身が思い出しやすい覚え方を考えることが大切です。覚え方を考えることが難しい場合は、教員が手本となるような覚え方を提案し、生徒と話し合いながら学習を進めるとよいでしょう。

リマインド書字学習の支援効果

- ・ 漢字書字の困難を示す生徒では、リマインド書字学習は、特に効果的です。
- ・ 始めの指導では、漢字部品についての言語的手掛かりとともに、漢字を書く学習をするよう指導しました。
- ・ 指導後、週に2回ずつ、2週間、漢字を学習する際の言語的手掛かりを、思い出す学習を行いました（リマインド）。これは右の図中の手掛かりリマインド群になります。3週目から、リマインドを行いませんでした。
- ・ 4週間後、リマインドを行わなかった時（非リマインド）や反復学習と比較したところ、漢字記憶が定着している割合が高いという結果を確認できました。



手掛かりリマインド：週2回、2週間、漢字の覚え方を確認した時の漢字の正答率
 リマインドなし：後から漢字の覚え方の確認をしなかった時の漢字の正答率。1回目の学習方法は同じ
 反 復 学 習：漢字を反復的に書く学習を4回くり返し行った時の漢字の正答率

Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

C：支援の例／ローマ字の読み書きの支援例

指導例①

子音と母音を組み合わせたアルファベットの音理解につなげる指導

- ① 日本語の音声は子音と母音を足すことでできていることを示す。
⇒「S(ス)」と「A(ア)」とつなげて言うと「さ」という音ができることを示す。
⇒「さ」を口を開けずに言おうとすると、「ス」という音になることから、「S=ス」と表記するルールを示す。



！ 指導のポイント

音声呈示だけで理解が困難な場合には、カナ表記でヒントを示したり、カードを実際に操作させることで、取り組みやすくなります。

指導例②

「アルファベットカード」による音の構成の指導

- ① アルファベットの文字と音の対応に基づいて、音の発音を予想させます。
- ② 音声で呈示した後に、アルファベットカードを並べ替えることで、新しい音を作らせます。

！ 指導のポイント

カードによる音声の混成がうまくできるようになったら、実際に自分や友人の名前、知っている言葉を書かせるなど、ステップアップしてみましょう。

「ブ、ア」を足すと何と読みますか？



支援教材のカナ表記の使用について

英単語つづりに困難を示す生徒には、英語発音と単語つづりの学習導入期に、日本語の発音に基づく支援教材を用いることが効果的であるということが分かってきました。特にアルファベット文字と音の関係を、効果的に学習できると報告されています。

本教材では、日本語発音に基づく支援教材として、近似カナ表記（島岡,1994）に基づいたカナ表記を手掛かりとして用いています。これは、日本語の音声を用いてできる限り英語に近い発音が可能となるよう研究されたものです。下部に、本教材におけるカナ表記とアルファベット文字の対応表を示しました。特別な配慮が必要な生徒に対して、アルファベット文字と音の対応関係の理解が、ある程度進むまでの限定的な補助として利用するものとします。

カナ表記	ア、エア	ブ	ク	ド	エ	フ	グ	／	イ	ヂ	ク	ンル	ム	ンヌ	オー	ブ
アルファベット文字	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p

カナ表記	／	ウル	ス	ト	／	ヴ	ウ	クス	イ	ズ	イー	エーイ	アイ	ス	ウー
アルファベット文字	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	ea	a-e	i-e	th	oo

*島岡丘「中間言語の音声学」P.10 を参考に作成 表のカナ表記中の空欄は、本教材で扱わないことを示す。

C：支援の例／英単語のつづりの支援①

【英単語つづりの背景と支援】

英単語のつづり学習の弱さの背景となる要因を調査しました。その結果、三つの要因が分かりました。



音素の構成	“b(ブ)” + “a(ア)” = ba(バ) 等の音素の構成が困難であると、“pen” など基本的な単語のつづりにも困難を示す。
つづりのルール	“ea” = 「イ」と読む等のつづりのルールが理解できないと、あらゆる単語をローマ字のように書いてしまう。
英単語の視覚認知	単語の見た目を記憶し活用する力が不十分であると、つづりの誤りに気付けない。



中学1年生では、「音素の構成」が、つづり困難の主な要因になります。中学2・3年生では、「英単語の視覚認知」「つづりのルール」が、要因に加わることが分かりました。

困難の背景となる要因に合わせたプリント学習が効果的です。これにより生徒にとって、負担の少ない学習支援が可能になります。

「読み書きアセスメント」では、困難の要因に対応した学習支援プリントを利用します。印刷の仕方は、P.54 にあります。



	背景となる要因に応じた学習支援	学習支援プリント
音素の構成	文字と音の関係がローマ字に準ずる単語のつづり	単語の紹介⇒文字⇒音対応の理解 ⇒音の混成⇒単語の意味の確認 ⇒穴埋めによる単語完成
つづりのルール	文字と音の関係がローマ字に準じない単語のつづり	単語の紹介⇒つづりのルールの紹介 ⇒音の混成⇒単語の意味の確認 ⇒穴埋めによる単語完成
英単語の視覚認知	見ただけでは発音が分かりづらい複雑な単語	単語の紹介⇒正しいつづりの選択 ⇒誤ったつづりの訂正 ⇒単語検索課題
英語の発音	英語の発音とつづりとの対応	P.37 に教材の紹介があります。 ご参照ください。

Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

C：支援の例／英単語のつづりの支援②

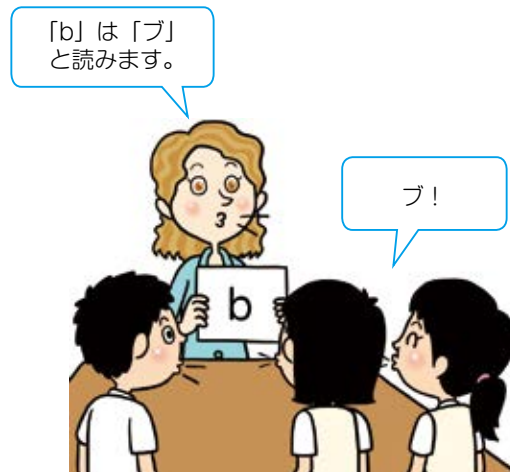
指導例 ①

アルファベットカードによる文字と音のマッチング

- ① アルファベットを一文字ずつ書いたカードを用いて、一文字ごとの発音を確認するように指示する。
- ② 音声を手掛かりとしたカード選びや、カード呈示による発音をするように指示する。

！ 指導のポイント

音声提示のみでは、文字との対応をうまく学習できない場合、カナ表記を手掛かりにすることも有効です。学習できてきたら、カナ表記の文字色を薄くする、小さくする、一部隠すなど、少しずつ手掛かりを少なくします。



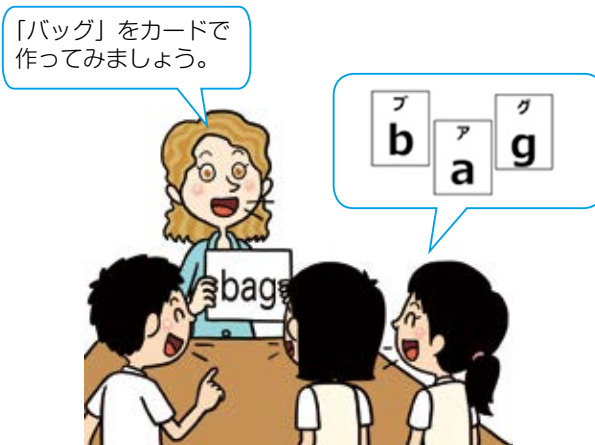
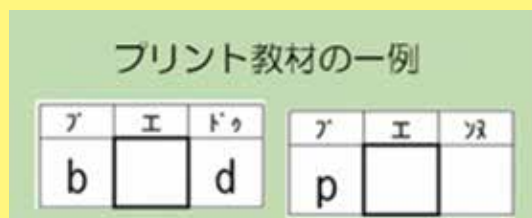
指導例 ②

「アルファベットカード」による単語の構成

- ① アルファベットの文字と音の対応に基づいて、単語の発音を予想するように指示する。
- ② 音声を手掛かりに、アルファベットカードを並べ替え、単語を完成させるように指示する。

！ 指導のポイント

カードでうまく単語が作れるようになってきたら、一部空欄になった単語を穴埋めで完成させるなど、書く作業につなげていきます。



C：支援の例／英単語のつづりの支援③

指導例 ③

単語カードによる視覚的イメージの形成

- ①単語カードを呈示して、できるだけ速く読むように促す。
- ②間違えずに読めるようになってきたら、単語カードを並べ、意味や発音を口頭で呈示し、カルタ取りをするように指示する。



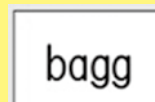
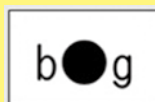
できるだけ速く
読んでみましょう。

バッグ！



指導のポイント

慣れてきたら、単語の一部を隠した単語カードを使用したり、誤ったつづりの単語をダミーとして選択肢に混ぜたりしてもよいでしょう。



指導例 ④

プリント課題による視覚的イメージの形成

- ①ランダムに配置されたアルファベットの中から、単語を探して○で囲むように指示する。頭の中に単語の形態を思い浮かべて探すことで、視覚的イメージを形成できるようになる。

ここで紹介するプリント教材の出力方法は P.54

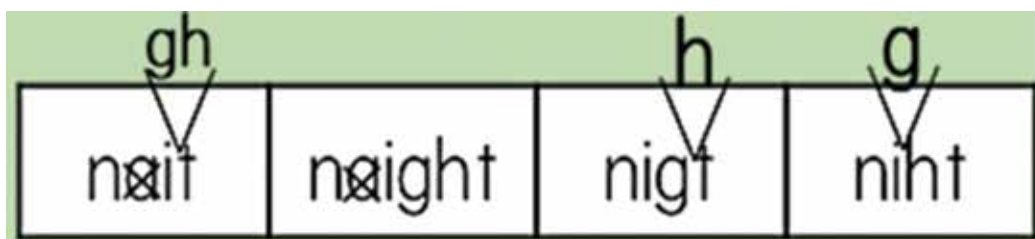


- ②間違ったつづりの単語を提示し、正しいつづりに修正するように指示する。より正しい視覚的イメージを定着させることにつながっていく。



指導のポイント

②は、ある程度単語の視覚的イメージが形成されたら、スムーズに取り組むことができるようになります。②の取り組みが困難な場合は、①に示した指導からチャレンジしてみましょう。



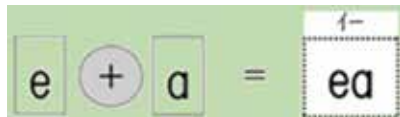
Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

C：支援の例／英単語のつづりの支援④

指導例⑤ 基本的なつづりの規則の指導

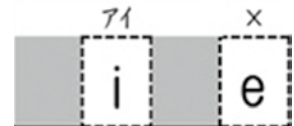
① 二重母音やサイレントE*など、代表的なつづりの規則を指導する。

二重母音



ルール：母音が二つ連続すると発音が変わる。

サイレントE

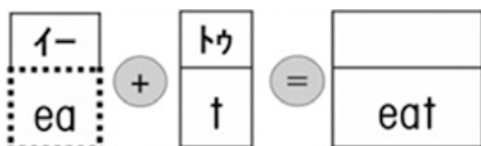


ルール：単語の最後に e がついているとき

1. 最後の e は読まない。
2. 2文字以上前の「i」は「アイ」と読む。

* サイレント E：単語の語尾にあって発音しない E（例：mine）

② 指導した文字の組み合わせについて、ほかの文字と組み合わせ、単語の発音を推測させる。文字カードでも実施できる。



！ 指導のポイント

特別なルールがあるつづりは点線、子音は細い実線、母音は太い実線などというように、枠線の種類を変えたり、色を変えたりすると、取り組む際の手掛かりになります。慣れてきたら、全ての枠線を同じ種類にしたり、色分けを無くしたりすることでステップアップできます。

指導例⑥ 「アルファベットカード」による単語の構成

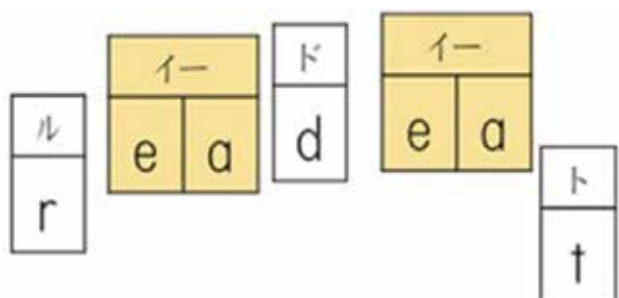
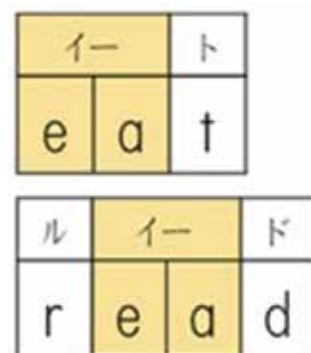
① 文字と音の対応が不規則な単語を、発音に応じて区切る。

② 区切った発音ごとにカードを作り、組み合わせて単語を完成させる。

* 文字と音の対応を上手く学習できない場合、カナ表記を示すことも有効。

！ 指導のポイント

カードによる単語の構成が上手くなってきたら、一部を空欄にした単語を呈示し、穴埋めによって完成させることで単語のつづりにつなげることができます。



3 CDソフトの使い方／「読み書きアセスメント」(通級による指導版)の使い方

「評価を入力」をクリックして、各生徒のテスト結果を入力します。生徒ごとの所見が出るので確認します。

評価の入力・編集 [A さん]

◎ 学習科目・エッセイリスト ※ 選択可能なリスト

二文字の漢字	独学独習、独学独習	漢字2文字、信心
数字: 1327	数字: 3	数字: 5
四文字の漢字	独学独習、独学独習	漢字2文字、信心
数字: 23	数字: 14	数字: 5
五文字の漢字	独学独習、独学独習	漢字2文字、信心
数字: 6	数字: 1323	数字: 7
六文字の漢字	独学独習、独学独習	漢字2文字、信心
数字: 8	数字: 14	数字: 7
七文字の漢字	独学独習、独学独習	漢字2文字、信心
数字: 3	数字: 14	数字: 2
八文字の漢字	独学独習、独学独習	漢字2文字、信心
数字: 3	数字: 14	数字: 2
九文字の漢字	独学独習、独学独習	漢字2文字、信心
数字: 3	数字: 14	数字: 2
十文字の漢字	独学独習、独学独習	漢字2文字、信心
数字: 3	数字: 14	数字: 2

評価を入力する時、所定を表示します。

[評価]

3年までで評価が達成された日に、成績通知書(100%ライン)を先生宛に。は、直ぐと先生宛に評価が達成とあることを通知する予定です。本通知に内附された表紙がのせます。

成績通知書(100%ライン)

成績通知書(100%ライン)

「報告を印刷（読み書き）」をクリックすると印刷されます。
「通常使うプリンタ」に出力されます。

読み書き達成度テスト (TAPW) 報告書

△学年 2 学年 1 期 4 期

△氏名 佐藤 真希子

◆読み書き達成度テスト結果

読み書きスキル名	達成度	内容	結果
文章の理解	文章の理解テスト	指定の文章を音読する力の評価	1 票
	単語テスト	指定の単語の意味を音読する力の評価	1 票
	一語一文テスト	指定の一語一文の意味を音読する力の評価	1 票
	短文テスト	指定の短文の意味を音読する力の評価	1 票
	短文の読み取りテスト	指定の短文の意味を音読する力の評価	1 票
読者の理解	読者の理解テスト	指定の読者の理解テスト	1 票
	読者の理解テスト	指定の読者の理解テスト	1 票
	読者の理解テスト	指定の読者の理解テスト	1 票
読者の理解	読者の理解テスト	指定の読者の理解テスト	1 票
	読者の理解テスト	指定の読者の理解テスト	1 票

*1 ■や2 □が重複している生徒は、学習上の配慮が必要

基本の設定

作業を終了するときは、情報・得点を保存します。

読み書きアセスメント (通級・特別支援教室版)

教室の情報

学年 A中学校

担任

生徒情報・印刷を開く

生徒情報・欄点を保存

☐ 生徒氏名のクリア

生徒の情報の登録

印刷

テストを印刷出力。印刷します。

テストの欄点を入力し、解答書を印刷します。

テストを印刷

支援教材

支援教材を印刷・提示します。

児童氏名 在籍校 学年

1	生徒氏名1	A中学校	3
2	生徒氏名2		
3	生徒氏名3		
4	生徒氏名4		
5	生徒氏名5		
6	生徒氏名6	中学校	3
7	生徒氏名7	中学校	1
8	生徒氏名8	中学校	2
9	生徒氏名9	中学校	3
10	生徒氏名10	中学校	1

ここでは、登録された生徒を選びます。

ここで、生徒の情報を入力・登録しておきます。

(*2)入心の要項目							
	児童氏名(*)	ふりがな	性別	生誕地名	学年(*)	学年	担任
1	宮城氏英一	みやぎ へいいち	男	中平学校	1年	4	砂田
2	宮城氏英二	みやぎ へいいち	女	中平校	2年	1	砂田
3	宮城氏英三	みやぎ へいいち	男	中平校	3年	2	砂田
4	宮城氏英四	みやぎ へいいち	女	中平校	1年	2	砂田
5	宮城氏英五	みやぎ へいいち	男	中平校	2年	1	砂田
6	宮城氏英六	みやぎ へいいち	女	中平校	2年	3	砂田
7	宮城氏英七	みやぎ へいいち	男	中平校	1年	2	砂田
8	宮城氏英八	みやぎ へいいち	女	中平校	2年	2	砂田
9	宮城氏英九	みやぎ へいいち	男	中平校	3年	3	砂田
10	宮城氏英十	みやぎ へいいち	女	中平校	1年	4	砂田

「読み書き達成テスト」を印刷し、実施します。

[illegible]

英単語のつづり支援ワーク等、学習支援教材

英単語のつづり支援ワーク



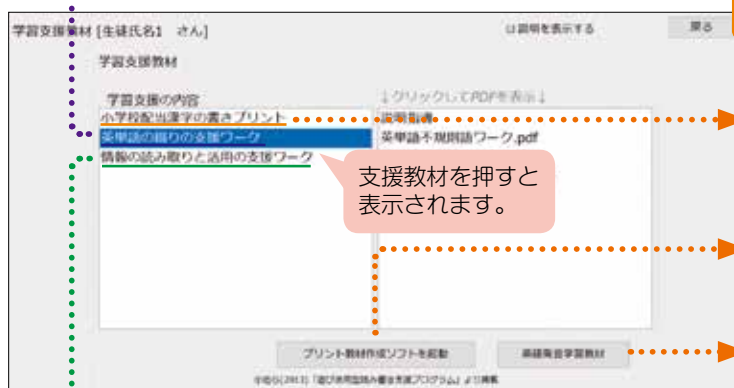
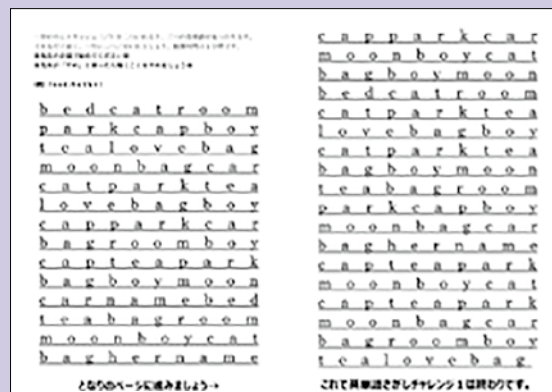
英単語のつづりの習得では、英語発音と英単語つづりの対応を学習することが大切です。そのために、文字と音の学習を生徒の達成レベルに合わせて支援(①②③)するとともに、ネイティブスピーカーの発音と英単語つづりの対応(④)の習得を支援します。

①文字と単語の関係がローマ字に準ずる単語についてつづりを学習するワーク

②文字と単語の関係がローマ字に準じていない単語についてつづりを学習するワーク

③文字と単語の関係がローマ字に準じていない単語について、つづりを学習するワーク

④PCソフト：ネイティブスピーカーの発音と英単語つづりの対応学習



小学校配当漢字の書き支援プリント

読み書きへの苦手意識が強い場合には、小学校配当漢字の書き支援プリントを利用することができます。

平仮名の読みプリントと漢字の読みプリントを、作成することができます。読み書きへの苦手意識が強い場合に効果的です(プリントの説明は、P.39とP.45)。

英語発音の教材を利用することができます。

情報の読み取りと活用の支援ワーク

言葉の手掛かりが順に少なくなるようにステップ(レベル1～3)を設定してある情報活用のプリント教材を使用します。

図表を使った説明にチャレンジ！①

売店のお菓子

レベル 1

Aさんの気持ち

「お菓子がたくさん、いいお店で菓子を売っているけど、売店にはいいお菓子が少ないです。甘いお菓子は2種類しかありません。甘いお菓子がほしいのに、と悩んでいます。」

ステップ1: Aさんの気持ちを読み取り、自分の気持ちに合うお菓子を2種類選んでください。

ステップ2: Aさんの気持ちを読み取り、必要なお菓子を2種類選んでください。

ステップ3: 以下の文を、Aさんの気持ちと自分の気持ち、お菓子の名前を記入してください。

「()のお菓子は全体の()%しかないので、もう少し、種類を増やしてくださいませんか？」

図表を使った説明にチャレンジ！②

お菓子の売場と売場

レベル 2

Aさんの気持ち

「お菓子がたくさん、いいお店で菓子を売っているけど、売店にはいいお菓子が少ないです。甘いお菓子は2種類しかありません。甘いお菓子がほしいのに、と悩んでいます。」

ステップ1: Aさんの気持ちを読み取り、自分の気持ちに合うお菓子を2種類選んでください。

ステップ2: Aさんの気持ちを読み取り、必要なお菓子を2種類選んでください。

ステップ3: 以下の文を、Aさんの気持ちと自分の気持ち、お菓子の名前を記入してください。

「()のお菓子は全体の()%しかないので、もう少し、種類を増やしてくださいませんか？」

図表を使った説明にチャレンジ！③

お菓子の売場と売場

レベル 3

Aさんの気持ち

「うちの学校の図書室は、古い本ばかりで、読みたいに出る本が少いです。もっと新しい本、読みたい本がほしいのに、と悩んでいます。」

ステップ1: Aさんの気持ちを読み取り、自分の気持ちに合う本の2種類選んでください。

ステップ2: Aさんの気持ちを読み取り、必要な本の2種類選んでください。

ステップ3: 以下の文を、Aさんの気持ちと自分の気持ち、本のタイトルを記入してください。

「()の本は全体の()%しかないので、もう少し、種類を増やしてくださいませんか？」

引用文献

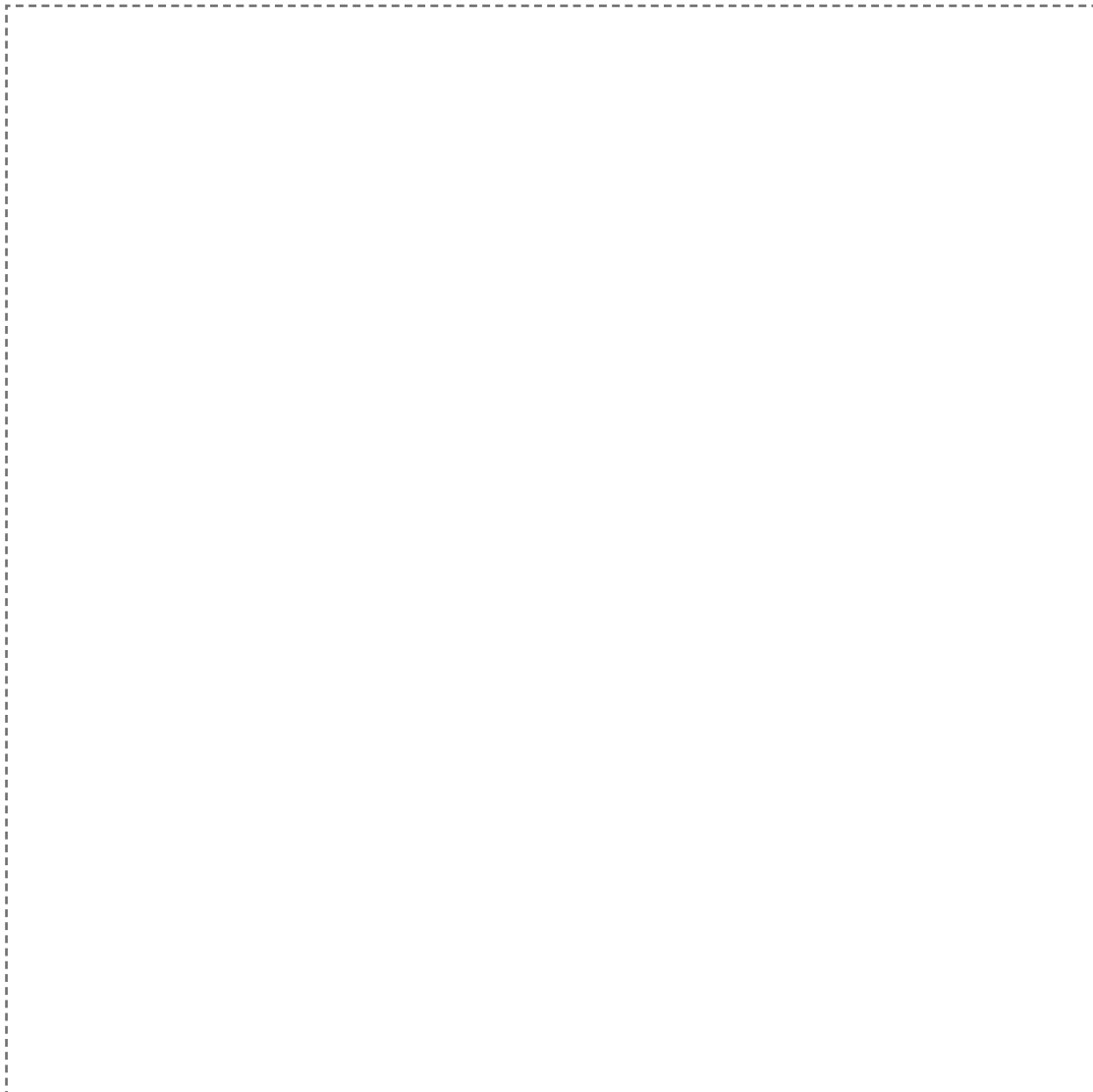
- (1) 彌永・中・銘苅・中村・小池 (2017) 小学生 1・2・3 年生における特殊表記習得の低成績の背景要因に関する研究. 特殊教育学研究, 55, 63-73
- (2) 小池 (2016) LD の子の読み書き支援が分かる本. 講談社.
- (3) 銘苅・中・後藤・赤塚・大関・小池 (2015) 中学生における英単語のつづり習得困難のリスク要因に関する研究. 特殊教育学研究, 53, 15-24.
- (4) 中・吉田・雲井・大関・五十嵐・小池 (2014) 小学 2 年における漢字読字・書字困難のリスク要因に関する研究. 特殊教育学研究, 52, 1-12.
- (5) 中村・中・銘苅・小池 (2017) 小学 2～6 年生における漢字書字低成績の背景要因に関する研究. 特殊教育学研究, 55, 1, 1-13.
- (6) Onda・Sato・Takimoto・Mekaru・Naka・Kumazawa・Koike (2015) Risk factors for kanji word-reading difficulty in Japanese elementary school children. Journal of Special Education Research, 3, 23-34.
- (7) Sato・Narukawa・Naka・Mekaru・Nakamura・Koike (2017) Risk factors for difficulty in reading comprehension of multiple-paragraph expository text at third to sixth grade of Japanese elementary schools. Journal of Special Education Research, 5, 23-34.
- (8) 瀧元・中・銘苅・後藤・雲井・小池 (2016) 学習障害児における改行ひらがな単語の音読特徴. 特殊教育学研究, 54, 65-75.
- (9) Kintsch, W. & van Dijk, T. A. (1978) Toward a model of text comprehension and production. Psychological Review, 85, 363-394.

【アセスメントについて】

本ソフトは、東京学芸大学・小池研究室と鹿児島大学・雲井研究室、NPO 法人スマイルプラネット・山先公一により共同開発されました。最新バージョンは、以下のサイトよりダウンロードできます。
(<http://sne-gakugei.jp/teaching/user/koik/201305231005.html>)

【読み書きアセスメントの設定】

- ①フォルダ名（任意名）を PC に作成します。
- ②DVD から PC へ、アプリケーション（読み書きアセスメント）とフォルダをコピーします。
- ③アプリケーション（LDGSH.exe）をダブルクリックすると起動します。



『読めた』『わかった』『できた』
読み書きアセスメント
～中学校版～

活用&支援マニュアル編

『読めた』『わかった』『できた』
読み書きアセスメント ～中学校版～ **活用&支援**マニュアル編

東京都教育委員会印刷物登録 平成 29 年度 222 号

発行日 2018 年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部特別支援教育指導課

所在地 東京都新宿区西新宿 2 丁目 8 番1号

電話 03-5320-6847

監修 東京学芸大学 小池敏英・中知華穂・銘苅実土
鹿児島大学 雲井未歆